

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
三次市地域公共交通会議	備北交通株式会社	市街地循環バスくるん (三次町循環) (南畑敷町循環)	【共通】 ・昨年度に引き続き、公共交通の新規利用者を創出するため、福祉部門と連携し、介護支援専門員(ケアマネジャー)向けの研修会において、路線バス等の利用促進に係る市の支援事業(高齢者運転免許自主返納支援事業、三次市相乗りタクシー事業)の周知を図った。 【下高野線】 【作木線②】 【川の駅三次線】 ・運行主体と連携し、フリー乗降区間を記載したバスマップをホームページに掲載し、利用促進を図った。 【さくぎニコニコ便】 ・運行主体と連携し、町内の広報誌等を用いて周知を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1循環あたりの利用者数が5.1人で、目標(5.4人以上)に達しなかった。 収支率が11.6%で、目標(22.8%以上)に達しなかった。 公的負担額が13,878千円で、目標(10,032千円)に達しなかった。 しかしながら、中心市街地での通院や買い物等の移動支援を図ることができた。	【共通】 ・引き続き、地域、関係自治体及び運行事業者と協議を行い、利用状況等を勘案しながら、再編・ダイヤ改善等を検討していく。 ・引き続き、介護支援専門員(ケアマネジャー)向けの研修会等において、市の支援事業(高齢者運転免許自主返納支援事業、三次市相乗りタクシー事業)や公共交通に関する周知を図る。 【下高野線】 【作木線②】 【川の駅三次線】 ・フリー乗降での利用方法等を周知することで利用促進を図る。	【評価できる点】 ・運行事業者と連携し、分かりやすい利用方法を記載したバスマップの作成により周知に取り組んだ点について評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・地域と連携した利用促進策が検討されることを期待する。
		B 1便あたりの利用者数が3.8人で、目標(4.3人以上)に達しなかった。 収支率が12.7%で、目標(17.3%以上)に達しなかった。 公的負担額が25,208千円で、目標(22,267千円)に達しなかった。 しかしながら、三次中心部への通院、通勤・通学、買い物等の移動支援を図ることができた。					
		B 1便あたりの利用者数が5.0人で、目標(5.3人以上)に達しなかった。 収支率が11.8%で、目標(17.6%以上)に達しなかった。 公的負担額が30,474千円で、目標(22,268千円)に達しなかった。 しかしながら、三次中心部への通院、通勤・通学、買い物等の移動支援を図ることができた。					
		B 1便あたりの利用者数が3.3人で、目標(4.1人以上)に達しなかった。 収支率が10.9%で、目標(18.0%以上)に達しなかった。 公的負担額が19,018千円で、目標(13,573千円)に達しなかった。 しかしながら、三次中心部への通院、通勤・通学、買い物等の移動支援を図ることができた。					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
三次市地域公共交通会議	有限会社君田交通	川の駅三次線			<p>B 1便あたりの利用者数が1.1人で、目標(2.0人以上)に達しなかった。 収支率が3.1%で、目標(3.6%以上)に達しなかった。 公的負担額が34,798千円で、目標(30,657千円)に達しなかった。 しかしながら、三次中心部への通院、通勤・通学、買い物等の移動支援を図ることができた。</p>		
	NPO法人元気むらさきぎ	さくぎニコニコ便 (作木町上地区) (作木町中地区) (作木町下地区)			<p>B 1月あたりの利用者数が32人で、目標(47人以上)に達しなかった。 収支率が5.3%で、目標(8.9%以上)に達しなかった。 公的負担額が2,087千円で、目標(1,981千円)に達しなかった。 しかしながら、路線バスへの接続、外出機会の提供、医療機関等への移動支援を図ることができた。</p>		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
廿日市市公共交通協議会	(株)廿日市カープタクシー	阿品台ルート	モビリーデイズの導入後、使い方説明会を要望のあった地域や地区では継続的に実施し、利用者の増加に取り組んだ。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	<p>①年間延べ利用者数 実績55,742人 ※目標未達成(目標57,700人 達成率96.6%)</p> <p>②財政支出額 実績6,478千円 ※目標達成(目標20,381千円以下 達成率314.6%)</p> <p>③収支率 実績55.0% ※目標達成(目標13.0%以上 達成率423.1%)</p>	<p>利用者数は昨年と比べても増加傾向にあるが目標未達成となった。利用者に向けてモビリーデイズによる広電との共通定期券制度の周知などを行い、引き続き利用者数の増加に向けて事業を継続する。</p> <p>また、モビリーデイズの導入により、ODデータの取得が可能になったことから、利用実態の分析を行っていく。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントにおいて公共交通の利用促進のPRを実施した点は評価できる。 ・支所等と連携し、介護予防事業や学校行事等の活用が増えている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
		宮内ルート	モビリーデイズの導入後、使い方説明会を要望のあった地域や地区では継続的に実施し、利用者の増加に取り組んだ。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	<p>①年間延べ利用者数 実績39,757人 ※目標達成(目標27,800人 達成率143.0%)</p> <p>②財政支出額 実績8,341千円 ※目標達成(目標19,864千円以下 達成率238.1%)</p> <p>③収支率 実績38.7% ※目標達成(目標13.0%以上 達成率297.9%)</p>	<p>全項目において目標を達成しており、次年度以降も同様に事業を継続していく。また、モビリーデイズの導入により、ODデータの取得が可能になったことから、利用実態の分析を行っていく。</p>	
		廿日市交通(株)	原ルート	モビリーデイズの導入後、使い方説明会を要望のあった地域や地区では継続的に実施し、利用者の増加に取り組んだ。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	<p>①年間延べ利用者数 実績36,387人 ※目標達成(目標32,900人 達成率110.5%)</p> <p>②財政支出額 実績34,291千円 ※目標未達成(目標18,661千円以下 達成率54.4%)</p> <p>③収支率 実績14.3% ※目標未達成(目標18.2%以上 達成率78.6%)</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
廿日市市公共交通協議会	佐伯交通有限会社	玖島・友和線	民生委員の代表が集まる場において、デマンドバスの使い方を含めた中山間地域における公共交通の説明会を実施し、PRを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	<p>①年間延べ利用者数 1,525人 ※目標達成 (目標1,062人 達成率143.5%)</p> <p>②財政支出額 実績2,940千円 ※目標未達成 (目標2,866千円以下 達成率97.4%)</p> <p>③収支率 実績4.3% ※目標未達成 (目標5.95%以上 達成率72.2%)</p>	利用者数については、目標を達成しているが、財政支出や収支率については、目標未達成であることから、次年度以降は財政支出額及び収支率を注視しながら事業を継続していく。
		所山線	民生委員の代表が集まる場において、デマンドバスの使い方を含めた中山間地域における公共交通の説明会を実施し、PRを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	<p>①年間延べ利用者数 121人 ※目標達成 (目標116人 達成率104.3%)</p> <p>②財政支出額 実績365千円 ※目標達成 (目標1,488千円以下 達成率407.6%)</p> <p>③収支率 実績12.9% ※目標達成 (目標4.25%以上 達成率303.5%)</p>	全項目において目標を達成しており、次年度以降も同様に事業を継続していく。
	有限会社津田交通	浅原線	民生委員の代表が集まる場において、デマンドバスの使い方を含めた中山間地域における公共交通の説明会を実施し、PRを実施した。地域から区域運行のエリア拡大の要望があり、R7.10月に再編を実施し対応している。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	<p>①年間延べ利用者数 1,131人 ※目標未達成 (目標1,283人 達成率88.1%)</p> <p>②財政支出額 実績3,879千円 ※目標未達成 (目標2,477千円以下 達成率63.8%)</p> <p>③収支率 実績5.2% ※目標達成 (目標3.05%以上 達成率170.4%)</p>	R7.10月で浅原線のダイヤ改正を実施し、これまで運行していなかった商業施設まで運行することとなり、利用者の利便性が向上している。再編後の利用者数を注視するとともに、引き続き、デマンドバスの周知を行い、未達成項目である利用者数及び財政支出額の目標達成に結びつけていく。
		中道・栗栖線	民生委員の代表が集まる場において、デマンドバスの使い方を含めた中山間地域における公共交通の説明会を実施し、PRを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	<p>①年間延べ利用者数 222人 ※目標未達成 (目標266人 達成率83.4%)</p> <p>②財政支出額 実績1,675千円 ※目標未達成 (目標1,127千円以下 達成率67.2%)</p> <p>③収支率 実績2.0% ※目標達成 (目標1.0%以上 達成率200.0%)</p>	収支率については、目標を達成しているが、利用者数や財政支出額については、未達成であることから、次年度以降は利用者数及び財政支出額を注視しながら事業を継続していく。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果
廿日市市公共交通協議会	NPO法人ほっと吉和	吉和線	NPOと協議をしながら引き続き運行形態の最適化を模索中。路線定期運行における利用者数の少ない便等の減便も視野に入れるなど具体的な内容を検討している。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ①年間延べ利用者数 1,804人 ※目標達成 (目標786人 達成率229.5%) ②財政支出額 実績1,225千円 ※目標達成 (目標1,461千円以下 達成率119.2%) ③収支率 実績14.1% ※目標達成 (目標9.5%以上 達成率148.4%)	全項目において目標を達成しており、次年度以降も同様に事業を継続していく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
府中市地域公共交通活性化協議会	株式会社中国バス	(右まわり便) 府中市役所～ 道の駅びんご府中～ 府中市民病院～ 府中市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅を交通結節点とした他路線への接続もスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。 ・日頃公共交通を利用する機会の少ない幼稚園児等とその家族に利用促進策として循環バスの飾り付けを行い、無料乗車券の配布を実施した。 ・商業施設1箇所と連携し循環バスの利用で買い物料金の割引が可能となる特典を、引き続き実施した。 ・令和4年4月から路線バスの路線再編を実施し、循環バスとの接続を考慮したダイヤ設定を行うとともに、循環バスと再編路線バスとの相互乗継割引も同時に開始した。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>【目標】 利用者: 16,000人/年 収支率: 18.9% 公的負担額: 可能な限り財政負担額の増加を抑える。 参考: 令和6年度5,135,223円</p> <p>【実績】 利用者: 14,121人/年 収支率: 17.7% 公的負担額: 8,111,000円 ・利用者数及び収支率は目標値に達しなかった。 ・公的負担額は物価高騰や人件費の増加などの影響から増加した。 ・効果として掲げた、道の駅の交通結節点とした他路線への接続はスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。</p>	<p>【右まわり便】 ・令和8年度目標 利用者: 16,500人/年 収支率: 18.6%</p> <p>【左まわり便】 ・令和8年度目標 利用者: 10,500人/年 収支率: 11.5%</p> <p>・左まわり便にて、地域の利便性を図るため、ルートの追加とパターンダイヤの導入に向けた便数の調整等を行い、令和8年10月からの運行を予定している。</p> <p>【共通事項】 ・公的負担額を可能な限り財政負担額の増加を抑える。 ・交通系ICカード(ICOCA)が導入され利用者の利便性向上が期待できるため、住民への周知を図っていく。 ・市街地交通不便地域が存在しており計画策定で実施した住民アンケートの結果等を基に地域の実情に適応した運行形態について検討する。 ・市街地循環バス沿線付近の公共施設や商業施設との共同企画やイベントの開催等を検討する。 乗り方教室などを活用して、利用方法について分かりやすく説明していく。</p>	<p>【評価できる点】 ・バスの乗り方教室の募集を若年層に限定せず実施した点は評価できる。 ・キャッシュレス決済システムの移行による利用者利便の確保維持に取り組んだ点について評価できる。</p>
	株式会社中国バス	(左まわり便) 府中市役所～ 見晴団地～ 府中高校～ 道の駅びんご府中～ 府中市役所 車両減価償却費補助を活用	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年9月から路線バスを対象としたバスの乗り方教室の募集を開始した。 ・令和6年4月から乗務員、利用者にも考慮したEVバスを導入し、右まわり便にて運行している。 ・キャッシュレス決済PASPYのサービス終了に伴い、利用者の利便性維持確保のためICOCAを導入した。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>【目標】 利用者: 10,000人/年 収支率: 11.2% 公的負担額: 可能な限り財政負担額の増加を抑える。 参考: 令和6年度5,808,639円</p> <p>【実績】 利用者: 8,987人/年 収支率: 12.5% 公的負担額: 8,993,000円 ・収支率は達成したものの、利用者は目標値に達しなかった。 ・公的負担額は物価高騰や人件費の増加などの影響から増加した。 ・通院・買物・公共施設等を利用する高齢者を中心とした日常の移動手段確保につながっている。</p>	<p>【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
安芸高田市公共交通協議会	株式会社 高宮中央タクシー	高宮甲田区域	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートを実施し、利用実態の把握と運用改善を実施した。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少と高齢化の進行により利用者減少傾向はあるが、高い稼働率を維持している。地域に定着すると同時に、生活交通としての機能を果たしている。 ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・利用登録者数はR6.10.1時点から138人(R7.9.30時点)増加した。 ・1日平均利用数は目標の109.5人に対し、105.3人(R6.10～R7.9)と目標を4.2人下回った。 ・稼働率(実運行回数/計画運行回数)は、目標91.0%に対し、100.6%であり、目標を9.6%上回った。 ・利用者アンケート「総合満足度」目標95.0%に対し、「満足・ほぼ満足・普通」との回答が94.1%と、目標を0.9%下回った。 ・収支率は目標の18.0%に対し、10.8%であり、目標を7.2%下回った。 ・公的資金投入額は目標の62百万円に対し、67百万円であり、目標を5百万円超過した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設と連携した乗車補助券の配布、市内店舗を対象とした待合場所の確保や電話予約の手助け(電話代行など)を行う「協力店制度」の取組を継続実施し、デマンド型区域乗合「お太助ワゴン」の登録者数増と利用促進を図る。 ・帰省者、来訪者に向け、HP等で利用方法を周知するとともに、バスの問合せに対しても、バスの案内と併せてデマンド型区域乗合「お太助ワゴン」も案内し、安芸高田市の公共交通を担う重要な交通手段の1つとして市内外問わず愛用者の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【評価できる点】 ・市内部での横断的な取組、商業施設との連携を継続し、利用登録者数を増加させた点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
	織田産業株式会社 (芸北タクシー) 沖田 正	美土里区域 吉田八千代区域	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所政策企画課のほか市役所市民課や支所窓口と連携し、利用方法を広く周知し、利用促進を図った。 ・利用促進のため、商業施設と連携した乗車補助券の配布、待合場所の確保や電話予約の手助け(電話代行など)を行う「協力店制度」の取組を継続実施した。 ・利用者の増加という大きな課題解決に向け、帰省者・来訪者からのバスの問合せに対し、デマンド型区域乗合「お太助ワゴン」も紹介し、希望者を利用登録した。 				
	有限会社 甲立タクシー (三ツ矢タクシー) 岩本 竜男	甲田向原区域					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
三原市地域公共交通活性化協議会	双葉運輸株式会社 株式会社エフ・ジー おかの交通株式会社	①船木路線 ②北方路線 ③南方路線	・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ・目標達成状況 収支率は目標12.7%以上に対し11.6%、利用者数は目標43.5人以上/日に対し37.4人/日、利用者一人あたりの公的負担額は目標1,820円/人以下に対し2,408円/人といずれも目標を下回った。 ・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移動手段が確保された。	・地域や利用者のニーズの把握に努め、利用者の増加につなげられるよう、運営主体の町内会、運行を担う交通事業者、市が協働で利用PRなどの普及・利用促進を行うとともに、必要に応じて運行内容の見直しを図るなど、目標達成に向けて取り組む。	
	有限会社久井交通 ハイランド交通	久井路線	・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ・目標達成状況 収支率は目標10.0%以上に対し6.0%、利用者数は目標20.0人以上/日に対し11.2人/日、利用者一人あたりの公的負担額は目標2,106円/人以下に対し4,830円/人といずれも目標を下回った。 ・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移動手段が確保された。	・地域や利用者のニーズの把握に努め、利用者の増加につなげられるよう、運営主体の町内会、運行を担う交通事業者、市が協働で利用PRなどの普及・利用促進を行うとともに、必要に応じて運行内容の見直しを図るなど、目標達成に向けて取り組む。	【評価できる点】 ・運営主体の町内会、交通事業者、市が協働し、継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、引き続き要因を分析するとともに、分析結果を活用し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
	有限会社久井交通	八幡路線	・利用に関するリーフレットを公共施設等で配布するなど利用促進に努めた。 ・町内会が主となって、町内会行事と連携した利用を働きかけるなど利用促進の取組を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ・目標達成状況 収支率は目標10.0%以上に対し11.4%、利用者数は目標10.0人以上/日に対し10.6人/日、利用者一人あたりの公的負担額は目標4,715円/人以下に対し2,494円/人といずれも目標を上回った。 ・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移動手段が確保された。	・地域や利用者のニーズの把握に努め、利用者の増加につなげられるよう、運営主体の町内会、運行を担う交通事業者、市が協働で利用PRなどの普及・利用促進を継続して行うとともに、必要に応じて運行内容の見直しを図るなど、目標達成に向けて取り組む。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
江田島市公共交通協議会	㈱江田島タクシー	江田島北部線(江田島町)大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・系統全体の収支率は17.7%となり、目標値(15%)を達成した。 ・稼働率について、目標である上下便のいずれかの稼働率50%(朝夕便は25%)に達しない便が2便あった。 ・江田島北部線 第3便 (上り)11.0% (下り)22.1% 第4便 (上り)15.2% (下り)46.2% ・沖美北部線・沖美南部線・江田島北部朝夕便においては、全便が目標を達成している。 ・4系統全体の利用者数は、9.8千人となり、目標値(11千人)を達成できなかった。 ・4系統全体の収支差は1,794万円となり、目標値(1,670万円)を達成できなかった。 ・4系統全体の公的負担額は、1,499万円となり、目標値(1,406万円以下)を達成できなかった。 【効果】 ・地域内の通院や買物など、特に高齢者の日常生活に必要な移動手段が確保された。 ・棧橋で広島行き航路と接続されていることにより、広島市への移動手段確保及び外出機会の創出につながった。	【目標に対する対応】 ・現状の利用者数を維持できれば、系統全体の収支率の目標値は引き続き達成できる見込みである。 ・稼働率の目標を達しない便は、昨年に続き2便あり、江田島北部線(朝夕便を含む)の稼働率は低迷し、4系統全体の利用者数や収支差、公的負担額も、目標値に達しない状況が続いている。おれんじ号等に無料で乗車できる「おでかけ無料乗車day」を行い、需要喚起を図るとともに、運行地域での出前講座の実施など、効果的なモビリティ・マネジメントを引き続き実施する。 【統括】 ・おれんじ号を利用したことがない人や利用の仕方が分からない人に、広報紙や出前講座などを活用して、その仕組みや利用方法を運行事業者と連携して分かりやすく説明していく。 ・市民生活を支えるため、必要なサービス水準を維持するとともに、引き続き、航路とバスとの接続や移動ニーズに対応した最適なダイヤ編成を行っている。	【評価できる点】 ・広報誌の活用や時刻表の全戸配布などにより利用促進・維持が継続して図られている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・地域と連携協働し、より効果的なモビリティ・マネジメントが検討・実施されることで、更なる需要喚起が図られることを期待する。
	㈱江田島タクシー	江田島北部線(朝夕便)(江田島町)大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。			
	㈱江田島タクシー(R7.4.1～R7.9.30)	沖美南部線(沖美町・能美町)三吉～是長～中町・飛渡瀬	・広報紙に公共交通の利用促進に関する記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。			
	三高タクシー	沖美北部線(沖美町・能美町)美能～高田～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。			
	㈱能美タクシー(R6.10.1～R7.3.31)	沖美南部線(沖美町・能美町)三吉～是長～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する記事を掲載しつつ、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
広島市地域公共交通活性化協議会	事業者: (有)やぐちタクシー運行系統: 系統①	フレスタロ田南店前～コープ高陽前・矢口駅～フレスタロ田南店前(8.8km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1便当たりの平均利用者数3.5人という目標に対し、令和7年度の実績は4.2人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	引き続き、商業施設と連携した割引制度を実施するなど、利用促進に努める。
	事業者: (有)やぐちタクシー運行系統: 系統②	フレスタロ田南店前～コープ高陽前・矢口駅～上矢口上(10.0km)						
	事業者: (有)中野タクシー運行系統: 上平原線	上平原～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路8.9km,復路9.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1回当たりの平均利用者数5.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.9人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	昨年ルート変更を行った際に、改めて時刻表の周知を行ったところであることから、その後の利用状況を注視しつつ、引き続き、商業施設と連携した割引制度を実施するなど、利用促進に努める。
	事業者: (有)中野タクシー運行系統: 山王押手上線	山王桜台～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路11.3km,復路11.3km)						
	事業者: (株)フォーブル運行系統: 大塚西	下城ハイツ上～大原駅・Aシティ中央～下城ハイツ上(13.6km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1便当たりの平均利用者数3.8人という目標に対し、令和7年度の実績は4.4人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	引き続き、利用状況を掲載した広報誌による周知を行うなど、利用促進に努める。
	事業者: (有)カオル交通運行系統: 系統1	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1便当たりの平均利用者数4.6人という目標に対し、令和7年度の実績は4.2人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	引き続き、フリーマーケットの実施を通して乗合タクシーの周知を行うことに加え、来年度からバス停が乗合タクシーの乗降場所の付近に移設され、乗継の利便性が向上することから、乗合タクシーの車中にバス停移設のチラシを配架するなど、利用促進に努める。
	事業者: (株)カオル交通運行系統: 系統2	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(12.0km)						

【評価できる点】
 ・地区ごとに施設やイベントと連携した利用促進策を実施したことは評価できる。
 ・GTFISを導入し利便性向上を図った点は評価できる。

【期待する取組】
 ・より利便性の高い交通サービスの提供がされるよう、引き続き関係者と連携協働が図られることを期待する。
 ・現在の利用者の動向について分析し、必要なサービス水準の維持と併せ、利用者以外の住民等からの意見も把握することで、新たな利用者の獲得が図られることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
広島市地域公共交通活性化協議会	事業者:つばめ交通㈱ 運行系統:系統1	ユアーズ～福田停留所(上)～ユアーズ(9.4km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1便当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.0人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、商業施設や公民館への時刻表の配架による周知を行うことに加え、地域イベント等への車両の展示を検討するなど、利用促進に努める。	
	事業者:つばめ交通㈱ 運行系統:系統2	ユアーズ～福田停留所(上)～セブンイレブン(11.5km)							
	事業者:はと第一交通㈱ 運行系統:戸坂ともいきタクシー	戸坂地区(区域運行)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1便当たりの平均利用者数3.0人という目標に対し、令和7年度の実績は2.8人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。		引き続き、協賛企業等へのステッカーの貼付による周知を行うことに加え、乗降ポイントマップの見直しを行うなど、利用促進に努める。
	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56010)	可部駅前～北部医療センター～今吉田公民館(28.6km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1回当たりの平均利用者数7.7人という目標に対し、令和7年度の実績は9.2人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。		引き続き、公民館や出張所への時刻表の配架による周知を行うなど、利用促進に努める。
	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56020)	可部駅前～上大毛寺～今吉田公民館(27.8km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1回当たりの平均利用者数6.4人という目標に対し、令和7年度の実績は5.9人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。		地元自治会から意見のあったダイヤの見直し等について事業者と協議を進めるなど、利用促進に努める。
	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(501)	熊野営業所～熊野町役場～初神～新宮～阿戸学校(9.8km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:2台	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1回当たりの平均利用者数6.4人という目標に対し、令和7年度の実績は5.9人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。		地元自治会から意見のあったダイヤの見直し等について事業者と協議を進めるなど、利用促進に努める。
	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(502)	阿戸学校～新宮～初神～萩原下～フジ熊野店(7.9km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1回当たりの平均利用者数6.4人という目標に対し、令和7年度の実績は5.9人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。		地元自治会から意見のあったダイヤの見直し等について事業者と協議を進めるなど、利用促進に努める。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
東広島市地域公共交通会議	JRバス中国株式会社	市街地循環線(のんバス)の運行(1)内回り	<p>・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」とされた点について、要因は「情報提供不足」と考え、目標を達成できるよう、「情報提供の強化」を図り、のんバス協力店舗が6つ新規追加となった。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>利用者数: ○ (1)【目標】48,193人以上/年 【実績】50,749人/年 【目標比】105%</p>	<p>・路線全体で見ると、「年間利用者数」および「公的資金投入額」は目標を達成した一方で、「収支率」は未達成であった。また、路線全体では目標を達成した指標についても、系統別に見ると未達成の系統が存在した。目標達成に向けて、定期的に交通事業者との会議を開催し、利用実績のモニタリングを行うとともに、運行改善および利用促進策を検討・実施する体制を構築する。</p>	<p>【評価できる点】 ・地元広報誌での紹介や、スーパーと協力した利用促進策を継続的に実施したことは評価できる。 ・新決済システムとマイナンバーカードとの連携による実証実験に取り組んだことは評価できる。</p> <p>【期待する取組】 ・より利便性の高い交通サービスの提供がされるよう、引き続き関係者と連携協働が図られることを期待する。 ・現在の利用者の動向について分析し、必要なサービス水準の維持と併せ、利用者以外の住民等からの意見も把握することで、新たな利用者の獲得が図られることを期待する。</p>
		<p>公的資金投入額: × (1)【目標】9,107千円以下 【実績】9,682千円 【目標比】106%</p>						
	<p>収支率: × (1)【目標】42.6%以上 【実績】37.7% 【目標比】89%</p>							
	<p>利用者数: ○ (2)【目標】58,500人以上/年 【実績】63,283人/年 【目標比】108%</p>	B		<p>・「公的資金投入額」、「収支率」の目標未達については、運転手の人件費、燃料費などの高騰の影響を受けていると考えられる。人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。</p>				
	<p>公的資金投入額: ○ (2)【目標】7,263千円以下 【実績】6,755千円 【目標比】93%</p>							
	<p>収支率: × (2)【目標】51.7%以上 【実績】50.3% 【目標比】97%</p>							
芸陽バス株式会社	市街地循環線(のんバス)の運行(1)内回り	A 計画通り事業は適切に実施された。	B		<p>利用者数: ○ (1)【目標】48,855人以上/年 【実績】51,648人/年 【目標比】106%</p>	<p>利用者数(JRバス(1)(2)) 【目標】106,693人以上/年 【実績】114,032人/</p>		
					<p>公的資金投入額: × (1)【目標】9,401千円以下 【実績】9,476千円 【目標比】101%</p>		<p>公的資金投入額(JRバス(1)(2)) 【目標】16,370千円以下/年 【実績】16,437千円/</p>	
	<p>収支率: × (1)【目標】57.4%以上 【実績】51.7% 【目標比】90%</p>				<p>利用者数(芸陽バス(1)(2)) 【目標】105,676人以上/年 【実績】115,789人/</p>			
	<p>利用者数: ○ (2)【目標】56,821人以上/年 【実績】64,141人/年 【目標比】113%</p>							
市街地循環線(のんバス)の運行(2)外回り	A 計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>公的資金投入額: ○ (2)【目標】7,693千円以下 【実績】6,858千円 【目標比】89%</p>	<p>公的資金投入額(芸陽バス(1)(2)) 【目標】17,094千円以下/年 【実績】16,334千円/</p>				
			<p>収支率: × (2)【目標】68.6%以上 【実績】66.1% 【目標比】96%</p>					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果			
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果			
東広島市地域公共交通会議	JRバス中国株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行 (1) 洪・長貫～ショージ～黒瀬支所線	・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」との助言については、要因を「情報提供不足」と考えた。昨年度は目標達成までとわず(1便当たり平均利用者数+0.3人)であったことから、目標達成に向けて、地元運行協議会が主体となり、アンケート調査を実施し、地域住民の利用実態を把握し、これまで取り組んできた「情報提供の強化」を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数: × (1)【目標】1,126人以上/年 【実績】909人/年 【目標比】81% 公的資金投入額: × (1)【目標】1,729千円以下 【実績】3,371千円 【目標比】195% 収支率: × (1)【目標】12.6%以上 【実績】4.4% 【目標比】35%	利用者数(事業全体) 【目標】4,969人以上/年 公的資金投入額(事業全体) 【目標】11,585千円以下/年 【実績】14,065千円/				
		黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行 (2) 洪・長貫～黒瀬支所線						A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数: × (2)【目標】492人以上/年 【実績】473人/年 【目標比】96% 公的資金投入額: × (2)【目標】1,330千円以下 【実績】1,660千円 【目標比】125% 収支率: × (2)【目標】11.0%以上 【実績】4.6% 【目標比】42%	・路線全体で見ると、「年間利用者数」は目標を達成した一方で、「公的資金投入額」および「収支率」は未達成であった。また、目標を達成した指標についても系統別にみると未達成の系統があった。 ・「年間利用者数」は、目標達成に向けて、令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年に実施したサロンでのヒアリング結果、令和7年8月にバス車内アンケート結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。
		黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行 (3) 八畝ヶ畑～黒瀬支所線								

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
東広島市地域公共交通会議	JRバス中国株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行 (4)洋国団地～黒瀬支所線		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	利用者数:○ (4)【目標】744人以上/年 【実績】806人/年 【目標比】108% 公的資金投入額:○ (4)【目標】2,161千円以下 【実績】1,597千円 【目標比】74% 収支率:× (4)【目標】15.7%以上 【実績】8.0% 【目標比】51%	
		黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行 (5)檜原～黒瀬支所線		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	利用者数:○ (5)【目標】1,425人以上/年 【実績】1,658人/年 【目標比】116% 公的資金投入額:× (5)【目標】2,459千円以下 【実績】2,816千円 【目標比】115% 収支率:× (5)【目標】16.8%以上 【実績】9.2% 【目標比】55%	
		黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行 (6)上条～黒瀬支所線		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	利用者数:○ (6)【目標】841人以上/年 【実績】1,150人/年 【目標比】137% 公的資金投入額:× (6)【目標】2,665千円以下 【実績】3,289千円 【目標比】123% 収支率:× (6)【目標】9.8%以上 【実績】5.7% 【目標比】58%	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
東広島市地域公共交通会議	有限会社白市交通	おまるめ山バスの運行 (1)大原中～あおぞらばん屋さん・門川内科医院	<p>・「新たに運行を開始した2事業(おまるめ山バス、志和ホテル交通)について、曜日や時間帯、乗降場所ごとの利用状況を分析し、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。」との助言については、利用実績をモニタリングし、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行った。</p> <p>・運営協議会での検討により、商業施設での待ち時間短縮や運行経路の延伸により利用者増が見込めることから、令和8年2月から、商業施設での待ち時間等を考慮したダイヤの見直しや、利用増が見込める経路の延伸などの運行改善を予定している。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	利用者数:○ (1)【目標】223人以上/年 【実績】345人/年 【目標比】155%	A 利用者数(事業全体) 【目標】1,840人以上/年	公的資金投入額(事業全体) 【目標】6,671千円以下/年
		公的資金投入額:○ (1)【目標】1,089千円以下 【実績】1,078千円 【目標比】99%					
		収支率:○ (1)【目標】3.5%以上 【実績】5.4% 【目標比】155%					
		おまるめ山バスの運行 (2)大原東団地～なんぶ内科医院		A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数:× (2)【目標】223人以上/年 【実績】199人/年 【目標比】89%	C ・路線全体で見ると、「年間利用者数」、「公的資金投入額」、「収支率」のいずれも目標を達成したが、系統別にみると未達成の系統があった。地元運営協議会主体で、利用実績のモニタリングを行うとともに、利用者、地域住民の声を集め、需要に即したダイヤ・経路の見直しを継続する必要がある。併せて、住民意見の収集手法の多様化と効果的な利用促進策の検討を進め、安定的な利用確保につなげる。	
公的資金投入額:× (2)【目標】429千円以下 【実績】437千円 【目標比】102%							
収支率:× (2)【目標】8.3%以上 【実績】7.5% 【目標比】91%							
おまるめ山バスの運行 (3)白市駅～大原中	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数:× (3)【目標】223人以上/年 【実績】204人/年 【目標比】91%	C ・令和8年2月から商業施設での待ち時間等を考慮したダイヤの見直し、利用増が見込める経路の延伸などの運行改善を予定している。				
公的資金投入額:× (3)【目標】703千円以下 【実績】713千円 【目標比】101%							
収支率:× (3)【目標】5.3%以上 【実績】4.9% 【目標比】92%							
おまるめ山バスの運行 (4)あおぞらばん屋さん・門川内科医院～大原東団地	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数:× (4)【目標】223人以上/年 【実績】202人/年 【目標比】91%	C ・「公的資金投入額」、「収支率」については、人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。				
公的資金投入額:× (4)【目標】896千円以下 【実績】909千円 【目標比】101%							
収支率:× (4)【目標】4.2%以上 【実績】3.8% 【目標比】91%							

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
東広島市地域公共交通会議	有限会社白市交通	おまるめ山バスの運行 (5)惣田地南～白市シヨージ前		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	利用者数:○ (5)【目標】237人以上/年 【実績】359人/年 【目標比】151% 公的資金投入額:○ (5)【目標】1,040千円以下 【実績】1,017千円 【目標比】98% 収支率:○ (5)【目標】3.8%以上 【実績】5.9% 【目標比】156%	
		おまるめ山バスの運行 (6)扱和～白市駅		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数:× (6)【目標】237人以上/年 【実績】212人/年 【目標比】89% 公的資金投入額:× (6)【目標】802千円以下 【実績】806千円 【目標比】100% 収支率:× (6)【目標】4.9%以上 【実績】4.5% 【目標比】92%	
		おまるめ山バスの運行 (7)白市駅～惣田地南		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	利用者数:○ (7)【目標】237人以上/年 【実績】293人/年 【目標比】124% 公的資金投入額:○ (7)【目標】986千円以下 【実績】975千円 【目標比】99% 収支率:○ (7)【目標】4.0%以上 【実績】5.1% 【目標比】128%	
		おまるめ山バスの運行 (8)白市駅～扱和		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数:× (8)【目標】237人以上/年 【実績】206人/年 【目標比】87% 公的資金投入額:× (8)【目標】726千円以下 【実績】731千円 【目標比】101% 収支率:× (8)【目標】5.4%以上 【実績】4.8% 【目標比】89%	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
東広島市地域公共交通会議	八本松タクシー	志和ホテル交通の運行 (1)志和堀地区	<p>・「新たに運行を開始した2事業(おまるめ山バス、志和ホテル交通)について、曜日や時間帯、乗降場所ごとの利用状況を分析し、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。」との助言については、利用実績をモニタリングし、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行った。</p> <p>・運行協議会が主体となり把握した住民ニーズに対応するため、次年度、予約受付時間の変更や乗降場所の追加・変更を予定している。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 利用者数: × (1)【目標】889人以上/年 【実績】81人/年 【目標比】9% 公的資金投入額: ○ (1)【目標】3,189千円以下 【実績】935千円 【目標比】29% 収支率: × (1)【目標】4.5%以上 【実績】2.3% 【目標比】51%	利用者数(事業全体) 【目標】2,667人以上/年 【実績】410人/年 公的資金投入額(事業全体) 【目標】9,567千円以下/年		
		志和ホテル交通の運行 (2)東志和地区			B 利用者数: × (2)【目標】889人以上/年 【実績】113人/年 【目標比】13% 公的資金投入額: ○ (2)【目標】3,189千円以下 【実績】1,025千円 【目標比】32% 収支率: × (2)【目標】4.5%以上 【実績】2.7% 【目標比】60%			・路線全体でみると、「公的資金投入額」は目標を達成したが、「年間利用者数」、「収支率」は未達成であった。地元運行協議会主体で、利用実績のモニタリングを行うとともに、住民ニーズを踏まえた運行改善および利便性向上策を検討する。 ・次年度、住民ニーズに対応するため予約受付時間の変更や乗降場所の追加・変更を予定している。 ・「公的資金投入額」、「収支率」については、人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。
		志和ホテル交通の運行 (3)西志和地区			B 利用者数: × (3)【目標】889人以上/年 【実績】216人/年 【目標比】24% 公的資金投入額: ○ (3)【目標】3,189千円以下 【実績】1,115千円 【目標比】35% 収支率: ○ (3)【目標】4.5%以上 【実績】4.8% 【目標比】107%			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
庄原市地域公共交通会議	備北交通株式会社	下高野線 1日 平日4往復、土日祝2往復	運行事業者と協議のもと、地域内の生活交通路線との乗り継ぎを考慮しながら、系統見直しに伴う平日1便の増加を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を5.3人以上としていたが、実績は5.0人で目標を達成できなかった。 また、系統収支率は17.6%、公的負担額は22,268千円を目標としていたが、令和6年度実績の系統収支率は11.8%、公的負担額は30,709千円で目標を達成できなかった。	目標値に達していないが、住民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持しつつ、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。 なお、系統収支率及び公的負担額の増加は人件費、燃料油、物価高騰の影響を受けているため、今後の動向を引き続き注視し改善に努める。	【評価できる点】 ・住民意見を反映し、路線の接続性の向上策を講じた点は評価できる。 ・「乗り放題バス」の作成、バスマップの配布による利用促進策を講じた点について評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
坂町地域公共交通会議	坂町	坂町循環バス 坂・北新地線	<p>バス停の待合環境改善のため、平成ヶ浜二丁目バス停に上屋とベンチを設置した。</p> <p>情報提供として、引続き、坂町循環バス時刻表パンフレットや各路線毎のポケット時刻表の車内配布やJR呉線や路線バスへの乗換案内の車内掲示、利用啓発記事の町広報誌やホームページへの掲載を行っている。併せて、GTFSデータの公開、民間の無料乗換案内サービスであるGoogleマップの修正を継続している。</p> <p>購入予定であった、横浜・北新地線の車両については、令和7年3月に納車された。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <p>【年間利用者数】 19,767人 未達成 (目標:21,000人)</p> <p>【使用料収入】 2,713千円 未達成 (目標:2,850千円)</p> <p>【支出額】 9,814千円 内国庫負担(申請額) 2,098千円 達成 (目標:2,400千円) 内坂町負担 5,003千円 未達成 (目標:3,860千円)</p> <p>【収支率】 27.65% 達成 (目標:25.2%)</p>	<p>現在、令和8年3月末の完成を目指し、地域公共交通計画の策定業務を行っている。</p> <p>計画策定の中で坂町循環バスに関する課題や求められる改善点などについての調査を行い、将来の目標や施策を決定する。</p> <p>策定した計画を基に施策に取組み、坂町循環バスの利用促進を図り、将来に渡って存続可能な公共交通となるよう努める。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> バス停での待合環境改善のため、住民意見と取り入れつつ上屋・ベンチを設置した点について評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
尾道市地域公共交通協議会	岡山交通株式会社	みつぎ乗合タクシー 区域運行型	<p>(R6評価結果) 目標が達成できなかった収支率や行政負担額について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を測り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。</p> <p>(R7反映状況) 地区団体や社会福祉協議会等に対し事業内容の説明を行い、引き続きの周知、連携イベントへの協力を依頼し、昨年度から利用者数が約460名増加した。</p>	A 運行計画どおりの運行回数により適切に実施されたため、適切性はAとする。	A 1日平均利用者数及び収支率は目標を達成している。また、利用者1人あたりの年間行政負担額が目標未達成ではあるが、運行内容の改善による利用者数増加に伴う運行経費の増加が要因であり、事業の利便性向上については十分な効果が得られていると考えられるため、目標・効果達成状況はAとする。 さらに、年間利用者数は前年度から約460人増加し、運行内容の改善後から増加傾向にある。	<p>学生の利用を想定したダイヤの利用者数が少ないため、引き続き地域団体や社会福祉協議会、交通事業者、教育委員会等と連携し、利用者の意見を踏まえた利用促進に努めていく。</p> <p>・周知強化と効率化による改善を図っていく。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿線地域や隣接自治体と連携した利用促進策を実施した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
	アシナトランジット株式会社 中央交通有限会社 中国タクシー株式会社	本郷・小原地区乗合タクシー 区域運行	<p>(R6評価結果) 目標が達成できなかった行政負担額について要因を分析し、利用者同士の乗り合わせ利用についても周知・促進されることを期待する。</p> <p>(R7反映状況) 地域住民の意見をもとに乗降場所の追加に係る協議を実施し、利便性向上を図った。(R7.12～施行) また、共同補助を行っている福山市と連携し地域住民への周知を図り、利用者数の増加につながった。(なお、小原地区の利用者数は全体の7割を占めている。)</p>	A 運行計画どおりの運行回数により適切に実施されたため、適切性はAとする。	A 1日平均利用者数及び利用者1人あたりの年間行政負担額は目標を達成している。また、収支率が目標未達成ではあるが、利用者数が増加傾向にあるものの、短距離の利用形態が多く収支率に結びつかなかった点や同地域を運行していたバス路線(R6.3廃止)のR5収支率11.7%から向上していることを考慮し、目標・効果達成状況はAとする。 現状の目標値は運行開始から半年間の実績をもとに設定したものであるため、令和7年12月から乗降場所を追加したことの影響も考慮しながら、次年度の目標値の見直しを行う必要がある。	<p>乗降場所毎の利用者数に大きく差が出ているため、関係者と連携した利用促進を実施しながら、乗降場所の移設等についての検討や事業周知を行う。また、学生等の利用者の意見を踏まえた運行形態を検討し、利用促進に努めていく。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
福山・笠岡地域公共交通活性化協議会	アシナトランジット株式会社 中央交通有限会社 中国タクシー株式会社	本郷・小原地区乗合タクシー 区域運行	・運営委員会と協議を行い、新たな乗降場所のニーズ調査を行い、追加をするなど見直しを行った。	A 計画通り適切に実施された。	B 目標値については、達成することができなかった。しかし昨年度より利用者数は増加傾向にあり、毎日一定の利用があるため、住民に必要な移動手段を確保できている。目標値については、今後見直しの必要がある。	利用者の利便性を高めるため、引き続き乗降場所の新設や移設を検討する。 アプリ利用率を上げるため、運営委員会と協力して、乗合タクシーの周知を含めたアプリ説明会の開催について検討する。	【評価できる点】 ・運営委員会と協議を行いつつ、乗降場所の見直しに係る調査を行った結果、7箇所の乗降場所を新設した点は評価できる。
	日の丸タクシー株式会社 一丸タクシー株式会社	山野地区乗合タクシー区域運行	・井原市と集団での利用登録について調整を行い利用促進につなげた。	A 計画通り適切に実施された。	B 市財政負担・収支率については、目標を達成した。利用者数については、目標値を達成することはできなかったが、利用者数が増加傾向にあり住民に必要な移動手段を確保できている。	運行の効率化を図るため、引き続き利用状況の集計・検証を行う。 利用状況によりニーズを把握するとともに、運行内容の見直しや利便性・効率性の向上を図る。	【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
府中町公共交通協議会	広島第一交通株式会社	清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド型乗合タクシー「うぐいす号」	住民への周知・利用促進の取り組みとして、対象地域である清水ヶ丘・桜ヶ丘地域の町内会長への利用状況の定期的な報告や、チラシの配架(スーパーや病院)を行った。また、利用実態の把握の取り組みとして、デマンドタクシーへの試乗を行い、乗務員や利用者の方の意見聴取を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標値】 令和6年度(R5.10~R6.3)の実績を踏まえて設定 ①利用者数 ・R7年度:4,550人 ②収益率 ・R7年度:14.0% ③収支差 ・R7年度:5,000千円以下 ④公的資金投入額 ・R7年度:5,822千円以下 【実績値】 ①R7年度:5,146人 ②R7年度:15.8% ③R7年度:4,891,700円 ④R7年度:5,808,400円 すべての項目において、目標を達成した。	利用者数については増加傾向にあり、地域への定着が図られてきている。それに伴い収益率、収支差、公的資金投入額についても、いずれも目標値を達成している。 引き続き、利用状況の分析や対象地域の町内会長との意見交換等により継続的な利用実態の把握などに取り組み、さらなる利便性向上や利用促進を検討する。	【評価できる点】 ・地域の商業施設を協議会の構成員に加え多様な主体とサービス向上や運行見直しの議論を行っている点は評価できる。 【期待する取組】 ・引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
熊野町地域公共交通活性化協議会	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(501)	熊野営業所～熊野町役場～初神～新宮～阿戸学校(9.8km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:2台	地域住民の生活交通を存続させるため、計画に基づいた適切な運行を行った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1回当たりの平均利用者数6.4人という目標に対し、令和7年度の実績は5.9人であり、目標は達成されなかった。 公共交通事業者の収支率は平成29年度実績82%に対し令和6年度は67%となり目標は達成されなかった。 公共交通運行経費への公的資金投入額は令和4年度実績5,726万円に対し令和6年度実績5,484万円となり現状維持程度となった。 運行を継続することにより、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保した。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	【評価できる点】 ・住民を交え利用促進策の検討を行いつつ、イベント等の機会を捉えて収支活動を行った点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
	事業者:朝日交通㈱ 運行系統:阿戸線(502)	阿戸学校～新宮～初神～萩原下～フジ熊野店(7.9km)					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
北広島町地域公共交通会議	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56010)	可部駅前～北部医療センター～今吉田公民館(28.6km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)	新地域づくりセンターでの時刻表設置等による周知活動を行い、継続して利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1回当たりの平均利用者数7.7人という目標に対し、令和7年度の実績は9.2人であり、目標が達成された。また収支率10%、町支出額1,633千円という目標に対し、実績としては収支率10.4%、町支出額1,949千円という結果だった。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	【評価できる点】 ・MaaS実証実験を行うなどして利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。待する。
	事業者:広島交通㈱ 運行系統:今吉田フィーダー(56020)	可部駅前～上大毛寺～今吉田公民館(27.8km) 【車両減価償却費補助金】 対象車両:3台(56010・56020系統)							

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
鳥取県東部地域公共交通活性化協議会	日本交通株式会社	米里線	(R6二次評価結果) ・目的が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (目標) 目標乗車人数57人に対し実績58人であり、目標を上回った。目標経常収支率7%に対し、実績20%であり、目標を上回った。 ※参考 【目標値(令和5年度現状値)】 鳥取市からの支出:145,204円 運賃収入:11,000円 経常収支率:7% 【実績】 鳥取市からの支出:49,730円 運賃収入:10,140円 経常収支率:20% (効果) 令和5年4月より地元の診療所及び学校を経由する路線に変更した。地域住民の広域移動及び通学を可能とする交通手段となっており、特に2月・6月の利用が伸びた。	令和7年7月に地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱基準に定める交通不便地域指定を解除。	【評価できる点】 ・利用者や運行事業者等と一体となり利用促進策の検討や運行内容の見直しを継続的に検討している点は評価できる。
	日ノ丸ハイヤー株式会社	雨滝・上地線			(反映状況) ・適宜、地域と利用状況を共有するとともに、事業者と利用促進及び運行内容の見直し等について意見交換した。	B (目標) 目標乗車人数4,006人に対し実績は2,410人であり、目標を下回った。目標経常収支率0.8%に対し、実績0.7%であり、目標をわずかに下回った。 ※参考 【目標値(令和5年度現状値)】 鳥取市からの支出:9,179,413円 国庫補助金:3,757,000円 運賃収入:104,701円 経常収支率:0.8% 【実績】 鳥取市からの支出:7,656,495円 国庫補助金(令和7年度申請額):3,833,000円 運賃収入:82,998円 経常収支率:0.7% (効果) 区域運行を行うフィーダー系路線として、幹線交通へのアクセスを重視したダイヤを設定しており、通学を中心とした地域住民の交通手段となっている。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
鳥取県中部地域公共交通協議会	三朝町	小河内線系統① 三朝町役場内～森公民館前・鎌田公民館前～実光 (路線不定期)	・地域公共交通について、取り組みや課題等を取り上げ、地域住民へ利用促進及び課題共有を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)600人/年 (実績)500人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合わせたダイヤ改正等の見直しを行い、利便性の向上に努めていく。 ・引き続き、町報やホームページ等を活用して周知を図るなど、利用促進につながる取組みを継続して進めていく。また、新たな施策やシステムを導入する際には積極的に周知を行う。 ・さらに利便性を高めるための方策の検討を行い、持続可能な公共交通を目指していく。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県中部のノーマイカー運動「100金バス」への参画や町報、ホームページ、防災無線での継続的な情報発信などにより利用促進を図っている点は評価できる。 ・利用者からの意見・要望を収集し、ダイヤ改正等の材料としている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
		小河内線系統② 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線不定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)1,138人/年 (実績)1,077人/年 目標は達成しなかったが、下校する児童等の移動手段を確保維持することができた。		
		小河内線系統③ 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)7人/年 (実績)2人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
	三朝町	穴鴨線系統① 三朝町役場内～三朝小学校前・若宮集会所前・各(村中)～大谷入口 (路線不定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)1,030人/年 (実績)878人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
		穴鴨線系統② 穴鴨公会堂前～運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)962人/年 (実績)558人/年 目標は達成しなかったが、学生や高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
		穴鴨線系統③ 大谷入口～穴鴨公会堂前・運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)172人/年 (実績)108人/年 目標は達成できなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
	日ノ丸自動車	穴鴨線系統④ 大谷入口～穴鴨公会堂前・運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標)1,149人/年 (実績)1,346人/年 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
		穴鴨線系統⑤ 木地山～上西谷上・三朝小学校前～三朝町役場内 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標)6,856人/年 (実績)7,498人/年 目標を達成した。通学する児童等の移動手段を確保維持することができた。		
	三朝町	徳本線 三朝町役場内～徳本～三朝温泉病院 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標)361人/年 (実績)312人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
江津市地域公共交通会議	江津市	松川波積線 川平駅～久坪～上津井～波積診療所 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。利便性の向上を図るため、キャッシュレス決済システムを導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	・利用者数(1運行当たり) 目標5.2人以上 実績2.4人 ※稼働率11.29% ・収支率 目標17.4%以上 実績7.4% ・市負担額 目標185千円以内 実績216千円	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
		川平線 後谷～奥谷～川平駅口 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。利便性の向上を図るため、キャッシュレス決済システムを導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	・利用者数(1運行当たり) 目標3.6人以上 実績2.5人 ※稼働率16.16% ・収支率 目標2.5%以上 実績1.8% ・市負担額 目標783千円以内 実績278千円	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
		鹿賀線 鹿賀団地～川越～桜江総合センター (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。利便性の向上を図るため、キャッシュレス決済システムを導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	・利用者数(1運行当たり) 目標2.0人以上 実績0.3人 ・収支率 目標2.3%以上 実績0.9% ・市負担額 目標2,007千円以内 実績2,009千円	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
		江津川平線 川平～千金～ゆめタウン江津前 (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。利便性の向上を図るため、キャッシュレス決済システムを導入した。住民要望を取り入れ、バス停の一部変更(廃止1,新設1)を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	・利用者数(1運行当たり) 目標4.4人以上 実績3.1人 ・収支率 目標6.8%以上 実績5.1% ・市負担額 目標3,958千円以内 実績4,928千円	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。
		江津有福線 有福温泉～都野津駅～江津駅 (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。利便性の向上を図るため、キャッシュレス決済システムを導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	・利用者数(1運行当たり) 目標2.0人以上 実績3.3人 ・収支率 目標4.4%以上 実績15.9% ・市負担額 目標13,692千円以内 実績10,574千円	新規利用者等の拡大に向けて住民と連携しながら、目標値の維持に努める。
							<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済端末の設置により決済方法を拡充した点は評価できる。 ・全世帯へのバスマップ配布、地域コミュニティとの意見交換により利用促進策を講じた点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
雲南市地域公共交通協議会	雲南市	大東松江乃木線	・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (目標) ・1運行当たりの利用者数は7.0人で、目標3.0人以上を達成した。 ・負担額は14,185千円で目標値12,650円よりも増加している。 ・収支率は6.6%で目標3.1%以上を達成した。 ・アンケートによる住民満足度は48.8%で、目標値58%に届かなかった。 (効果) ・日常生活における移動及び中心市街地への移動手段を確保できた。	・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、目標を達成できるよう取り組む。	
		吉田だんだんバス 吉田ルート (吉田～菅谷)	・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (目標) ・1運行当たりの利用者数は4.6人で、目標2.3人以上を達成した。 ・負担額は12,483千円で目標値10,884円よりも増加している。 ・収支率は3.0%で目標3.1%以上に僅かに届かなかった。 ・アンケートによる住民満足度は48.8%で、目標値59%に届かなかった。 (効果) ・日常生活における移動及び中心市街地への移動手段を確保できた。	・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、目標を達成できるよう取り組む。	【評価できる点】 住民、利用者等と連携したニーズ把握によるサービス改善を行った点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・公共交通に対する住民満足度について、市民アンケートをの結果を活用するなどして、利用者が使いやすい交通サービスの実現に向けた検討がなされることを期待する。
		田井ルート (吉田～杉戸)					
		赤名吉田線	・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (目標) ・1便当たりの利用者数は2.4人で、目標3.0人以上には届かなかった。 ・負担額は1,361千円で目標値3,107円以下を達成している。 ・収支率は4.7%で目標3.1%以上を達成した。 (効果) ・高速バスへのアクセス等中心市街地への移動手段を確保できた。 ・通院、通学、通院、買い物等への移動手段を確保することができた。	・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、目標を達成できるよう取り組む。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
飯南町地域公共交通協議会	飯南町	赤名吉田線 (1日4往復)	利用者数の目標を達成するため、ニーズの掘り起こし、ダイヤ改正等を行い利便性の向上を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ●1便あたりの利用者を3.0人以上としていたが、実績は2.4人であり、目標を達成できなかった。 ●年間利用者数を8,998人以上としていたが、実績は6,886人であり、目標を達成できなかった。 ●収支率を5.7%以上としていたが、実績は4.7%であり、目標を達成できなかった。 ●行政負担額(利用者1人支出額)を2,749円以下としていたが、実績は3,763円であり、目標を達成できなかった。	利用者の自然減を考慮しながら、引き続き、利用者数の増加、利便性を図るため、ニーズの掘り起こし及びダイヤ改正等を検討する。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 ・高速バスとの接続性向上策や、観光施設のアクセス向上策を踏まえたダイヤ改正等は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
	備北交通株式会社	赤名線 (1日4往復)	運行事業者と協議を行い、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ●1便あたりの利用者を4.3人以上としていたが、実績は4.2人であり、目標を達成できなかった。 ●収支率を17.3%以上としていたが、実績は12.7%であり、目標を達成できなかった。 ●公的負担額を22,267千円以下としていたが、実績は30,839千円であり、目標を達成できなかった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
邑南町地域公共交通会議	備北交通(株)	作木線②	<p>通学・通院利用を中心に、住民の日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。また、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。</p>	A 事業は、計画通り適切に実施された。	B 1便当たりの利用人数:目標4.1人以上に対し実績3.3人 収支率:目標18%以上に対し実績10.9% 公的負担額:目標13,573千円以下に対し、実績19,056千円	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、ダイヤ再編・改善の検討を行う。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 羽須美地域区域運行からバスへの、乗り継ぎ環境を整備した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
川本町地域公共交通協議会	大和観光株式会社	川本美郷線 系統2 上野 ~ 石見川本	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、特に工事等による遅延含め学校関係と調整を密に行った	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1運行当たりの利用人数、目標11.0人以上に対し実績15.1人 年間利用者数、目標9,600人に対し実績12,454人 収支率、目標30%以上に対し実績27.9% 自治体負担額、目標4,000円/人以下に対し実績1,598円/人	三次市への接続、大田市への接続、川本町内での接続など町全体の移動ニーズに沿ったダイヤを検討する	【評価できる点】 ・利用が最も多く見込まれる通学利用に重点を置き、ダイヤの見直しや通学に係るバス定期券の全額補助を実施した点は評価できる。
	大和観光株式会社	川本美郷線 系統6 浜原駅前 ~ 石見川本	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、特に工事等による遅延含め学校関係と調整を密に行った	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1運行当たりの利用人数、目標7人以上に対し実績6.4人 年間利用者数、目標5,700人に対し実績6,061人 収支率、目標30%以上に対し実績20.7% 自治体負担額、目標4,000円/人以下に対し実績2,008円/人	川本町の加藤病院移転に伴うダイヤ改正等が予定されているため、改正に伴う学校関係との調整を密に実施する	【期待する取組】 ・通学利用以外の利用向上に向け、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
美郷町地域公共交通協議会	大和観光株式会社	川本美郷線 系統2 上野 ~ 石見川本	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、特に工事等による遅延を含め学校関係と調整を密に行った	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1運行当たりの利用人数、目標11.0人以上に対し実績15.1人 年間利用者数、目標9,600人に対し実績12,454人 収支率、目標30%以上に対し実績27.9% 自治体負担額、目標4,000円/人以下に対し実績1,598円/人	三次市への接続、大田市への接続、川本町内での接続など町全体の移動ニーズに沿ったダイヤを検討する	【評価できる点】 ・運転手不足の対策として、外国人技能実習生の受入の検討や自動運転バスの実証事業を行っている点は評価できる。 【期待する取組】 ・引き続き関係者と連携協働を図り、他の事業の取組も活かしながら、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
	大和観光株式会社	川本美郷線 系統3 上野 ~ GUおおち	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、特に工事等による遅延を含め学校関係と調整を密に行った	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1運行当たりの利用人数、目標7人以上に対し実績6.9人 年間利用者数、目標10,500人に対し実績10,564人 収支率、目標20%以上に対し実績11.4% 自治体負担額、目標4,000円/人以下に対し実績2,651円/人	特に大和地区の小中学校の登下校で利用されるため、学校関係との調整を密に行う	
	大和観光株式会社	川本美郷線 系統6 浜原駅前 ~ 石見川本	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、特に工事等による遅延を含め学校関係と調整を密に行った	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1運行当たりの利用人数、目標7人以上に対し実績6.4人 年間利用者数、目標5,700人に対し実績6,061人 収支率、目標30%以上に対し実績20.7% 自治体負担額、目標4,000円/人以下に対し実績2,008円/人	川本町の加藤病院移転に伴うダイヤ改正等が予定されているため、改正に伴う学校関係との調整を密に実施する	
	備北交通株式会社	作木線 系統2 三次中央病院 ~ GR大和	作木線 系統2についてのダイヤ改善は無かったが、作木線系統1について接続等考慮しつつ改善が実施された。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 1運行当たりの利用人数、目標4.1人以上に対し実績3.3人 年間利用者数、目標5,000人に対し実績2,997人 収支率、目標18%以上に対し実績10.4% 自治体負担額、目標4,000円/人以下に対し実績6,358円/人	引き続き、関係自治体や運行事業者と関係を行い、利用促進も図っていく	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
松江市公共交通利用促進市民会議	島根県雲南市 島根県松江市	雲南市民バス・大東松江乃木線 (大東駅～乃木駅)	<ul style="list-style-type: none"> ・市報等の周知による利用促進を図った。 ・利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、路線バス等との接続確保のためダイヤ改正に努めた。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・1運行当たりの利用者数目標3.0人以上に対し、7.0人であった。 ・松江市からの支出を8,200千円以下にする目標に対し、実績5,700千円であった。 ・収支率9.5%以上の目標に対し、実績3.6%であった。 	住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、市民アンケートによる住民満足度が目標を達成できるよう取り組む。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民説明会の開催、市報による広報、運行エリア全戸に対するリーフレット配布による利用促進策を講じた点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで講じてきた利用促進策の効果や実証実験の結果を検証し、引き続き、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
	あいかタクシー	御津コミュニティバス (御津～春日南、県民会館)	<ul style="list-style-type: none"> ・市報等の周知による利用促進を図った。 ・利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、路線バス等との接続確保のためダイヤ改正に努めた。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・運行期間の利用者数目標42,700人に対し、9,730人であった。 ・松江市からの支出を1,700万円以下にする目標に対し、実績1,359万円であった。 ・収支率9.5%以上の目標に対し、実績収支率12.8%であった。 	市民アンケートの結果を踏まえて、運行路線を一部変更し、利便性向上をはかる。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
三江線沿線地域公共交通活性化協議会	備北交通(株)	作木線①	通学・通院利用を中心に、日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者:7.1人(目標値:5.4人以上) ・収支率:13.7%(目標値:17.8%以上) ・行政負担額:19,751千円(目標値:19,376千円以下) 	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。	【評価できる点】 ・地域に対する積極的な呼びかけ、「子ども乗り放題バス」などの利用促進策を講じた点は評価できる。
	NPO法人はすみ振興会	羽須美地域区域運行	利用者ニーズを注視しながら運行を実施した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の利用者:782人(目標値:854人以上) ・収支率:7.5%(目標値:8.5%以上) ・行政負担額:12,885千円(目標値:11,915千円以下) 	引き続き、利用状況を観察し、利用者ニーズに対応した運行を実施する。	【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
津山市地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(1)津山西循環線 (津山駅～マルナカ院庄店～PLANT5～津山駅)		A	A	交通系ICカード(ICOCA)利用の周知を図ったことで、利用率が約8%から15%に上昇。利便性の向上に繋がった。今後も、ICOCA利用者の増加、中・高生向けの啓発活動、様々な情報媒体を活用した利用啓発や周知を進めるとともに、「バス乗り方教室」などを積極的に実施し、利用意識の醸成につなげていく。	【評価できる点】 ・公共交通乗り方教室やそれを踏まえた意見・要望の収集、地元高校生と連携したバスのデコレーション、公共交通に関する講座とフィールドワークの実施による利用促進及び啓発活動を講じた点は評価できる。 ・AIデマンド交通の実証実験結果及び地域の要望等を基に乗降ポイントの追加や運行形態の改善は評価できる。 【期待する取組】 ・これまで講じてきた利用促進策の効果や実証実験の結果を検証し、引き続き、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
		(2)マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山駅～マルナカ院庄店)	・交通系ICカード(ICOCA)利用促進動画を活用し、周知を図った。 ・AIデマンド交通を本格実施し、二次交通の改善を行った。 ・R7年6月に公民館サロンで公共交通乗り方教室を実施。利用に関する意見や要望を収集することで問題点等の把握に努めた。 ・R7年9月に愛育委員からの要請を受け、乗車体験ツアーの企画支援を行った。地域住民の利用ニーズ把握に努めるとともに、利用促進を図った。 ・津山東高校生を対象に、公共交通に関する講座とフィールドワークを開催し、学生への啓発活動に取り組んだ。	A	B	ICOCAの利用率が約9%から15%に上昇したことで、利用者増加にはつながったが、同ルートの系統(1)と比べて経常収支率が低く、利用率に差が生じている。今後は、運行経路等の見直しを検討するとともに、沿線自治体と連携した利用促進、中・高生向けの啓発活動、「バス乗り方教室」などを積極的に実施することで利用意識の醸成につなげていく。	
		(3)小循環線 (津山駅～志戸部～津山駅)		A	A	ICOCAの利用率が約15%から21%に上昇したことによる利便性の向上や、森の芸術祭の影響(R6.10・11月)で、昨年度に比べると利用者数は増加したが、年間の目標の達成には至らなかった。乗務員不足による欠便が生じたことが要因の一つと考えられる。今後は、通常運行の早期再開を目指し、運行事業者と連携して乗務員確保に取り組むとともに、路線全体でのダイヤ見直しを検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
津山市地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(4)加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)	<p>・交通系ICカード(ICOCA)利用促進動画を活用し、周知を図った。</p> <p>・AIデマンド交通を本格実施し、二次交通の改善を行った。</p> <p>・加茂支所線の車両更新に併せて交通系ICカード決済システムを導入し、利便性の向上を図った。</p> <p>・バス、鉄道、AIデマンドを組み合わせ利用できる「tabiwa津山因美バス」の取組を実施し、二次交通の改善及び利便性の向上を図った。</p> <p>・津山商業高校生と連携し、東循環線バスのクリスマスデコレーションを実施。利用の促進と公共交通機関の利用に対する意識醸成等を行った。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C	(4)は、利用者数、経常収支率、市補助金額ともに目標を下回った。	<p>地域内の人口減少に加え、高齢者の日常利用が、自家用車や家族送迎などの移動手段へ変更したことが目標未達成の主な要因と考えられる。</p> <p>他の系統に比べ、交通系ICカードの利用率が低いことから、今後もICOCA利用促進動画等のあらゆる情報媒体を活用した利用啓発や周知を進め、「バス乗り方教室」を積極的に実施し、利用意識の醸成につなげていく。</p> <p>また、AIデマンド交通による二次交通の改善から利便性向上を周知し、バス利用者の増加を目指す。</p> <p>(5)(6)については、乗務員不足による減便が続いているため、運行事業者等と連携して早期再開を目指す。</p>
		(5)勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	経常収支率の目標は達成したが、利用者数及び市補助金額は目標を下回った。	
		(6)(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	経常収支率の目標は達成したが、利用者数及び市補助金額は目標を下回った。	
		(7)津山東循環線 (津山駅～イオン津山店前～津山駅)		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	経常収支率の目標は達成したが、利用者数及び市補助金額は目標を下回った。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
津山市地域公共交通会議	津山市	(8)AIデマンド交通 (阿波地域)		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 経常収支率は目標達成したが、利用者数及び市支出額は目標を下回った。	<p>実証運行の期間と比べて全体の利用人数は増加傾向にあるが、阿波地域の利用が伸び悩んでいることが目標未達成の一因と考える。地域の要望等を踏まえ、定時路線も含めた運行形態の見直しや、乗降ポイントの追加等を行ったが、改善には至っていない。</p> <p>今後は、引き続き利用の周知を図るとともに、WEB予約がスムーズに行えるようシステムの改善を検討する。</p> <p>また、阿波地域については、定時定路線運行とデマンド運行の効果的・効率的な運行形態の見直しを図る。</p>	
	加茂観光バス株式会社 株式会社加茂タクシー	(9)AIデマンド交通 (加茂地域)					
	津山市	(10)AIデマンド交通 (勝北地域)					
	有本観光バス株式会社	(11)AIデマンド交通 (久米地域)					
	中鉄北部バス株式会社	公有民営補助(車両更新) (4)加茂支所線 車両1台 更新	A ・計画通り事業は適切に実施された。	B 低床小型バス車両を1台購入し、令和6年10月から運用を開始。年間総利用者数は、目標12,471人に対し10,469人となり、目標を下回った。	<p>交通系ICカード決済システム導入による利便性向上や、鉄道やデマンド交通との複合的な利用を促進するための「taibwa津山因美バス」の取組も実施したが、目標達成には至らなかった。</p> <p>今後もICOCA利用促進動画等を活用した利用啓発や周知活動、「バス乗り方教室」の積極的な実施により、利用意識の醸成につなげていく。</p>		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
新見市地域公共交通会議	備北バス(株)	市街地循環線 上市横見～石蟹	<p>・新たな利用者の掘り起こしを行うため、昨年度に引き続き市内全世帯及び新見公立大学の学生に対して時刻表を配布した。また、乗合タクシーの実証運行を実施するにあたり、市街地循環線に結節させることで、利用促進を図った。</p> <p>・市街地循環線において、令和6年2月から交通系IC「ICOCA」を使つての決済を利用開始した。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B <p>・乗合タクシーとの接続などにより、利用者数は目標108人/日に対し117.03人/日と目標を達成できた。</p> <p>・フィーダー補助金上限額が前年度を下回ったことにより、新見市からの支出目標5,200千円以下に対し7,142千円と相対的に増額となった。</p> <p>・利用者の増加により、収支率目標24.8%以上に対し26.44%と目標を達成できた。</p>	<p>・令和8年4月に向け、利用者ニーズを踏まえた市街地循環線の運行形態の見直しについて検討している。</p> <p>・今後も引き続き利用促進事業などの啓発活動を行い、潜在的な利用者の掘り起こしを行う。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】</p> <p>・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。</p> <p>・キャッシュレス決済について、利用方法の周知や接続する交通と連携した取組を期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
真庭市地域公共交通会議	真庭市	<p>■フィーダー系統</p> <p>①蒜山～久世(1日:12便)</p> <p>②新庄～久世(1日:8便)</p> <p>③北房～久世(1日:12便)</p> <p>■減価償却費等補助</p> <p>1)対象車両:4台</p> <p>使用ルート:蒜山・久世 3台 北房・久世 1台</p>	<p>・利便性の向上を目指し、令和7年4月から幹線3ルートに加えて枝線にも電子地域通貨「まにこいん」を導入し、全線でキャッシュレス決済を可能とした。</p> <p>・利用が低迷している枝線北房ルートについて、コミュニティバスから転換し民間を事業主体とする新たなオンデマンド交通のしくみを構築(令和8年1月から実証運行予定)</p> <p>・チョイソコマにわは、利用者数、登録者数及び停留所が順調に増え、地域に定着しつつある。</p> <p>・市内イベントに合わせ、臨時夜間便である『ナイトまにわくん』を運行した。</p> <p>・フィーダー系統運行の全車両の車内にデジタルサイネージを導入し、利用者のマナー向上やPR情報を掲載し、利用環境の改善を図った。</p>	A 運行計画のとおり、事業は適切に実施された。	B	<p>■フィーダー系統</p> <p>①「フィーダー系統の年間延べ利用者数:115,000人」 ⇒実績「95,121人」</p> <p>【特記事項】</p> <p>1)利用者人数(前年比)</p> <p>・年間利用状況 蒜山・久世ルート:49,255人(104.9%) 新庄・久世ルート:16,056人(94.5%) 北房・久世ルート:29,810人(100.3%) 昨年度比では増加したが、目標としては未達成</p> <p>②まにわくん幹線に係る財政支出を80,000千円以内とする。 ⇒実績「86,791千円」 利用者数の目標未達成による運賃収入想定未達やバス車両修繕費の増により、目標は未達成</p> <p>③まにわくん幹線ルートの収支率を20.3%以上(令和5年度実績17.2%)とする。 ⇒実績「10.4%」 ②同様に運賃収入目標未達及び修繕費などの経費増により、目標は未達成</p> <p>■減価償却費等補助</p> <p>目標「バリアフリー対応車両(独自基準):運行車両の85%(長期的には100%)」 ⇒実績「89.5%」</p> <p>【特記事項】</p> <p>・運行車両19台の内、17台がバリアフリー対応車両となっている。長期的には100%を達成できる見込み</p>	<p>・市内高校生の登下校対応を基本に、JR姫新線と民間路線バスとの接続及び運転免許証を保有しない市民や高齢者の通院等、日常生活利用にも配慮した効率的で利便性の高い、公共交通を目指す。</p> <p>・交通空白解消のため、枝線を含めた見直しなど、地域公共交通の再構築を全体の見直しを引き続き実施する。</p> <p>・チョイソコマにわについて、引き続き利用者の増加やエリアスポンサー獲得に努め、更なる利便向上や制度の定着を目指す。</p> <p>・観光利用の促進を図るため、運用中のバスロケーションシステムの機能強化や周知及び活用策を検討する。</p> <p>・安定運行や修繕費等の経費抑制のため、コミュニティバス運行バス運行車両更新計画を見直し、更新サイクルの短期化や予備専用車両の導入を検討する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・鉄道接続にあわせたダイヤ改正により利用促進を図った点は評価できる。</p> <p>・デジタル地域通貨「まにこいん」決済を全線に導入し利便向上策を講じた点は評価できる。</p> <p>・夜間臨時便(ナイトまにわくん)を実施した点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】</p> <p>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
玉野市地域公共交通会議	旭自動車(株)	①玉原・和田・日比エリア ②庄内・八浜エリア ③山田・東兎エリア ④田井・中央(宇野・築港)・玉エリア	シーバスやシータクの新規利用者確保に向け、複雑化する地域公共交通(シーバス・シータク)の利用方法について、わかりやすく丁寧に出前講座等で周知を図り、収支率の改善を目指した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・乗合タクシー(シータク)の利用者数について、目標値35,000人/年に対して、33,653人/年であった。 ・シータクの利用者数については、昨年度と比較してほぼ横ばいであり、シーバス路線が充実している中で利用者数を維持できているものの、利用者数全体では、目標達成に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座、各種アンケート等で得られた市民意見の掘り起こしを行い、利用方法のわかりにくさから利用していない方がいるという課題に対して、DXの活用等簡単でわかりやすく説明することで、利用者の増加に繋げていく。 ・利用者の直接の意見を反映させるため、出前講座やバス教室等を事業者とともにを行い、より利便性の高いダイヤ、ルートに改善し、利用者を増やすとともに収支率の改善にも繋げていく。 	【評価できる点】 ・シーバスの運賃見直しにあたって、市内公共交通全体で取り組んだ点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・利用促進に当たって、より効果的な出前講座の検討や潜在需要の掘り起こしを期待する。
	双葉タクシー(株)					<ul style="list-style-type: none"> ・市内の公共施設や病院への移動手段がなく不便を感じている市民の割合については、目標値8.6%以下に対して8.3%(令和6年度市民意識調査)であり、目標を達成した。 ・外出する頻度が週1日以下の高齢者(65歳以上)の割合については、目標達成には至らなかったものの、目標値11.7%以下に対し11.8%(令和6年度市民意識調査)と、あと一歩であった。 		
	下電観光バス(株)					<ul style="list-style-type: none"> ・収支率については、公共交通全体では15.9%と多少改善しているが、乗合タクシーのみでは12.4%とほぼ横ばいとなっており、どちらも目標達成には至っていない。 ・財政負担額については、公共交通全体では76,659千円と多少改善しているが、乗合タクシーのみでは38,013千円と昨年度より増加しており、公共交通全体としては減っているものの、乗合タクシーが増加している。 		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
倉敷市地域公共交通会議	㈱日の丸タクシー	真備地区コミュニティタクシー事業 西ルート(区域運行) (真備町妹、尾崎、服部、箭田、市場、有井、川辺、岡田、辻田地区の一部)	<ul style="list-style-type: none"> 市のホームページに、コミュニティタクシーのパンフレットを掲載し、情報発信に努めた。 運営委員会を対面方式で開催し、利用者の推移など、当地区の現状や、今後の利用促進が必要であることなどについて、認識を共有した。 	A	B 利用者目標3,300人に対し2,522人、運行平均乗車人数は目標2.3人/回に対し1.7人/回、運行割合は、目標100%に対し100%、収支は、目標-2,371千円に対し-2,766千円、公的資金投入額(国)は、目標1,276千円に対し1,382千円、公的資金投入額(市)は、目標4,791千円に対し4,678千円であった。	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年豪雨災害後の真備地区の人口の回復状況や今年度の各系統の利用実績を加味した現実的な目標値を設定する。 今後も地元運営委員会と連携して継続的な広報活動、利用促進活動に取り組んでいく。 地元要望がある場合など、必要に応じてコミュニティタクシーに関する地元説明会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【評価できる点】 運賃無料デーの実施やフリーパス1日乗車券の販売による利用促進を実施した点は評価できる。 【期待する取組】 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
		真備地区コミュニティタクシー事業 東ルート(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺地区の一部)			B 利用者目標1,100人に対し1,704人、運行平均乗車人数は目標1.7人/回に対し1.3人/回、運行割合は、目標81.6%に対し100%、収支は、目標-973千円に対し-1,679千円、公的資金投入額(国)は、目標517千円に対し839千円、公的資金投入額(市)は、目標1,965千円に対し2,701千円であった。		
		真備地区コミュニティタクシー事業 南ルートA(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺、下二万、上二万地区の一部)			B 利用者目標3,200人に対し2,558人、運行平均乗車人数は目標2.4人/回に対し1.9人/回、運行割合は、目標100%に対し100%、収支は、目標-2,371千円に対し-2,564千円、公的資金投入額(国)は、目標1,280千円に対し1,282千円、公的資金投入額(市)は、目標4,791千円に対し4,758千円であった。		
		真備地区コミュニティタクシー事業 南ルートB(区域運行) (真備町上二万、船穂町船穂地区の一部)			B 利用者目標190人に対し130人、運行平均乗車人数は目標1.2人/回に対し1.2人/回、運行割合は、目標31.0%に対し24.8%、収支は、目標-244千円に対し-206千円、公的資金投入額(国)は、目標125千円に対し0円、公的資金投入額(市)は、目標493千円に対し469千円であった。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
倉敷市地域公共交通会議	両備ホールディングス㈱	玉島地区路線バス事業 中国能開大(路線定期運行) (新倉敷駅北口～中国能開大) ※公有民営方式車両購入費 国庫補助金を活用 (ワンステップバス1台)	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の利用者数、収支、公的資金投入額の実績をもとに目標値を算出し、設定した。 交通事業者と連携した利用促進の取組みを行った。 	A	B	利用者目標18,100人に対し13,140人、収支は、目標406千円に対し759千円、公的資金投入額(国)は、目標8千円に対し0円、公的資金投入額(市)は、目標42千円に対し0円であった。	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の実績を踏まえ、現状に即した目標値を設定する。 事業主体である市と運行主体である交通事業者が連携して利用促進活動に取り組んでいる。 沿線企業や学校への実態調査により、ダイヤ設定の見直しを検討していく。
		玉島地区路線バス事業 駅線(路線定期運行) (新倉敷駅～玉島中央町) ※公有民営方式車両購入費 国庫補助金を活用 (ワンステップバス1台)			B	利用者目標14,600人に対し9,575人、収支は、目標-2,069千円に対し-1,278千円、公的資金投入額(国)は、目標360千円に対し639千円、公的資金投入額(市)は、目標1,823千円に対し1,959千円であった。	
		玉島地区路線バス事業 住友東(路線定期運行) (新倉敷駅～住友重機械西門) ※公有民営方式車両購入費 国庫補助金を活用 (ワンステップバス1台)			B	利用者目標7,600人に対し9,617人、収支は、目標-1,228千円に対し-27千円、公的資金投入額(国)は、目標293千円に対し13千円、公的資金投入額(市)は、目標1,487千円に対し574千円であった。	
		玉島地区路線バス事業 新倉敷坂田町(路線定期運行) (新倉敷駅～坂田町) ※公有民営方式車両購入費 国庫補助金を活用 (ワンステップバス1台)			B	利用者目標16,300人に対し12,846人、収支は、目標-2,440千円に対し-1,763千円、公的資金投入額(国)は、目標506千円に対し881千円、公的資金投入額(市)は、目標2,562千円に対し2,746千円であった。	
		玉島地区路線バス事業 ハーバーアイランド(路線定期運行) (新倉敷駅～(クレ入口・坂田町)～ハーバーアイランド3工区) ※公有民営方式車両購入費 国庫補助金を活用 (ワンステップバス1台)			B	利用者目標4,900人に対し3,188人、収支は、目標-1,497千円に対し-543千円、公的資金投入額(国)は、目標242千円に対し271千円、公的資金投入額(市)は、目標1,225千円に対し946千円であった。	
		玉島地区路線バス事業 クレ正門ハーバー3(路線定期運行) (新倉敷駅～(クレ正門前)～ハーバーアイランド3工区) ※公有民営方式車両購入費 国庫補助金を活用 (ワンステップバス1台)			B	利用者目標6,100人に対し11,010人、収支は、目標4千円に対し916千円、公的資金投入額(国)は、目標34千円に対し0円、公的資金投入額(市)は、目標173千円に対し0円であった。	
		玉島地区路線バス事業 クレ入口ハーバー3(路線定期運行) (新倉敷駅～(クレ入口)～ハーバーアイランド3工区) ※公有民営方式車両購入費 国庫補助金を活用 (ワンステップバス1台)			B	利用者目標120人に対し131人、収支は、目標-170千円に対し-111千円、公的資金投入額(国)は、目標19千円に対し55千円、公的資金投入額(市)は、目標99千円に対し273千円であった。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
赤磐市地域公共交通会議	(有)竹内タクシー	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 是里線、中山線、滝山線、河原屋線、周匝線)	デマンド型市民バスのより一層の利用者獲得を図るため、利用促進に向けた啓発を継続して実施した。 具体的には、従来から実施していた、座学のためのバスの乗り方教室に加え、社会福祉協議会と連携して、実際にデマンド型市民バスを利用して、買い物に行く企画を行った。	A 運行計画に従い、適切に実施された。	A ③に記載の利便性向上の取組により、利用者は増加傾向にある。 利用者数は目標値1,596人に対して2,007人、収支率(路線収入÷運行経費)は目標値1.6%に対して2.5%、財政負担(運行経費÷延べ利用者数)は目標値6,190円/人に対して、5,982円/人といずれも目標を達成した。	利用促進に向けた啓発を継続して実施し、潜在的な利用者の掘り起こしを行う。 また、今年度実施した「デマンド型市民バスを利用した買い物企画」の参加者がデマンドバスの利用登録をした割合は40%と、通常のバスの乗り方教室の15%よりも高いという実績が得られた。加えて、高齢者等の引きこもり防止や外出支援等の福祉施策としての効果も期待される。引き続き同様の企画を行い、利用者獲得に努める。 利用者増加に伴うサービスの質の低下(待ち時間の長期化、予約の困難化)を防止するため、システム業者・運行事業者と連携し、AIデマンド型予約配車システムの機能設定の最適化について検討を進める。	【評価できる点】 ・デマンドエリアの拡張と併せてAIデマンド型配車予約システムの導入による予約時間の短縮による利便向上策を講じた点は評価できる。 ・工夫を凝らしたデマンドバスの乗り方教室による新規の利用者を獲得した点は評価できる。 【期待する取組】 ・引き続き、これまで講じてきた利用促進策の効果や利用状況、地域住民の要望を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
	(有)荒嶋建設	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 西勢実・中勢実線、暮田・平山線)	利便性向上の取組として、令和7年4月から吉井地域全域をデマンドエリアに設定、併せて、AIデマンド型予約配車システムの導入、予約時間の短縮(前日17時までから1時間又は2時間前に短縮)を行った。 広域路線バス(赤磐・美作線)の延伸や停留所の増設、周匝上とJR瀬戸駅を結ぶ広域路線バス(赤磐・瀬戸線)の新設を行い、地域外への移動手段を充実させた。				
	(有)赤坂タクシー	赤磐市赤坂地域でのデマンド型市民バスの運行	令和6年1月から実証運行を開始、11月から本格運行に移行した。徐々に地域住民への認知が進んでおり、利用者数は増加傾向にある。 利用者数は目標値750人に対して1,195人、収支率は目標値2.7%に対して3.1%、財政負担は目標値6,849円/人に対して、6,511円/人といずれも目標を達成した。 (対象期間R6.11～R7.9)				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
鏡野町公共交通会議	(株)中鉄北部バス	上齋原～マルナカ線	R6.12月にアンケートを車内に設置し、紙とGoogleフォーム、職員による聞き取りを行った。 R7.3月に中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするチラシを配布し、利用啓発および、アンケートによる通学でのバス利用調査を行った。 R4.4月より、高校生等通学助成事業において、定期券の購入費助成事業を開始している。R6.4月より、助成額の増額を行い、継続中。	A 計画通り、事業は適切に実施された。	B 利用者数 目標 5,342人 (R5実績値の1%増) ⇒R7実績:7,092人 (目標対比:132.8%) 収支率 目標 3.0% (R5実績値の現状維持) ⇒R7実績:4.03% 運行補助額 目標 25,141,000円以内 ⇒R7実績:26,470,000円	町民の外出支援として定着しつつあるが、さらに新規利用者の発掘を検討する。高齢者の外出支援等、路線の見直しを検討していく。 利用人数については、徐々に増加しており、今年度はコロナ禍以前の水準に回復している。結節点であるプラント5でのごんごバス西循環線への乗継ぎ、待ち時間等に改善点がないか、車内アンケート等で聞き取りを行い、さらなる利便性向上を検討する。	【評価できる点】 ・実績値を上回る目標を設定している点は評価できる。 ・高校生等通学助成事業の実施に併せて、中学校卒業を控えた3年生にバス利用を周知した点は評価できる。 【期待する取組】 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
		津山ごんごバス西循環線	R6.12月にアンケートを車内に設置し、紙とGoogleフォーム、職員による聞き取りを行った。 R7.3月に中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするチラシを配布し、利用啓発および、アンケートによる通学でのバス利用調査を行った。 R4.4月より、高校生等通学助成事業において、定期券の購入費助成事業を開始している。R6.4月より、助成額の増額を行い、継続中。	A 計画通り、事業は適切に実施された。	A 利用者数 目標 15,800人 (R5実績値の1%増) ⇒R7実績:16,230人 (目標対比:102.7%) 収支率 目標 15% (R5実績値の現状維持) ⇒R7実績:18.8% 運行補助額 目標 1,485,830円以内 ⇒R7実績:1,572,279円	路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入、AIデマンド交通実証実験などの影響により、利用者人数がコロナ禍前の水準近くまで回復している。今後は、交通系ICカードの利用者の増加、中学生や高校生向けの周知活動、車内アンケート等による聞き取りを行い、利用促進に努める。	
		津山ごんごバスマルナカ西循環線	R6.12月にアンケートを車内に設置し、紙とGoogleフォーム、職員による聞き取りを行った。 R7.3月に中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするチラシを配布し、利用啓発および、アンケートによる通学でのバス利用調査を行った。 R4.4月より、高校生等通学助成事業において、定期券の購入費助成事業を開始している。R6.4月より、助成額の増額を行い、継続中。	A 計画通り、事業は適切に実施された。	B 利用者数 目標 7,550人 (R5実績値の1%増) ⇒R7実績:8,441人 (目標対比:111.8%) 収支率 目標 15% (R5実績値の現状維持) ⇒R7実績:13.5% 運行補助額 目標 658,225円以内 ⇒R7実績:696,522円	路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入、AIデマンド交通実証実験などの影響により、利用者人数がコロナ禍前の水準近くまで回復している。今後は、交通系ICカードの利用者の増加、中学生や高校生向けの周知活動、車内アンケート等による聞き取りを行い、利用促進に努める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
吉備中央町地域公共交通会議	中鉄バス株式会社	・総社南校北～宮前線 ・総社駅～妙仙寺線	・本路線について、町内及び総社市において周知を行い、買い物や観光での利用を呼びかけた。今後、総社市との連携を強化し、利用者の増加を目指す。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標: 令和4年度実績を維持する。5,470人(456人/月) 財政負担額は、7,084千円(令和5年度実績)を基に収支率17.0%とする。 結果: 4,024人(335人/月) 運行経費の増加により財政負担額は、10,964千円の見込みで収支率は11.5%に低下。 令和7年度は本路線を利用する総社市の高校へ進学する生徒が減ったことにより、利用が減少した。	総社市に通学する生徒の利用状況に左右される傾向があることから、一般利用者における利用ニーズの有無について、アンケート調査等により把握する必要があると考える。 また、周知については当町の広報を用いて掲載を行い、総社市内ではチラシの持ち込み等を実施したが、十分な効果が得られたとは言い難いため、沿線地域や想定される利用者層に応じた、より効果的な周知方法を検討する。	【評価できる点】 ・中学3年生を対象に、中学校で行われた高校進路説明会の場で保護者や生徒に対して路線バスの説明、利用促進及び補助制度の周知を行った点は評価できる。 【期待する取組】 ・通学利用者に対してより利便性の高い交通サービスが提供されるとともに、地域の商店等との連携や、イベント等の実施に併せて利用促進を行うなど、通学利用者以外の利用者獲得に向けた取組を期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
福山・笠岡地域公共交通活性化協議会	株式会社井笠バスカンパニー	(1)美の浜線 美の浜地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	・福山・笠岡地域公共交通計画をR6年3月に策定。 ・利用が少ない路線に関しては、減便や廃線を進め、代替手段についての検証も行った。今後もダイヤ改定等により利便向上を図る。 ・利便向上のための、交通ICカードICOCAを導入した。今後ODデータを活用し効率的な公共交通施策に繋げる。 ・笠岡観光協会と連携し、市内小中学生にバス利用に慣れてもらえる企画「バス旅」を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数 29,102人/ 23,562人	目標の達成には至らなかった。笠岡市交通交流センターの利用啓発を含めて、地域住民の利用促進及びマイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、利用定着を図ってまいりたい。また、利用の低い時間帯のダイヤについて、改廃等を検討する。	【評価できる点】 ・利用者の少ない路線について、再編や代替交通の検討している点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・ドライバー不足による減便の結果、利便性の低下を余儀なくされた路線について、地域の意見を踏まえた再編に期待する。
		収支率 35.55%/ 29.12%						
		系統毎の市財政負担 3,850千円/7,255千円						
		A 計画通り事業は適切に実施された。		C	利用者数 34,166人/ 25,950人	目標の達成には至らなかった。デマンド大島線の廃線により本線の需要は高まることが想定されるため、ダイヤの見直しも含め、さらなる利便性向上及び、利用促進に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。		
					収支率 33.87%/27.25%			
系統毎の市財政負担 1,676千円/4,109千円								
A 計画通り事業は適切に実施された。	B	利用者数 1,753人/ 2,712人	利用者数、収支率に関して目標は達成できた。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(4)(5)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。					
		収支率 11.38%/16.63%						
系統毎の市財政負担 1,831千円/4,183千円								
A 計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数 3,779人/ 3,260人	目標の達成には至らなかった。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善に努める。また、(3)(5)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。					
		収支率 17.87%/15.34%						
系統毎の市財政負担 1,433千円/4,959千円								
A 計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数 596人/ 563人	目標の達成には至らなかった。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(3)(4)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。					
		収支率 22.56%/21.00%						
系統毎の市財政負担 309千円/774千円								

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
福山・笠岡地域公共交通活性化協議会	株式会社井笠バスカンパニー	(6)城見台線 城見台団地～総合スポーツ公園～笠岡市民病院～笠岡駅を結ぶ路線バス	A 計画通り事業は適切に実施された。	B	利用者数 5,763人 / 3,027人	R6.1.9からバス会社の人員不足により減便となり、利便性改善のため利用者が減少し、目標の達成に至らなかった。利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、今年度実施した乗降調査をもとにダイヤの改廃を検討する。	
		収支率 22.88%/29.58%					
		系統毎の市財政負担 1,566千円 / 1,711千円					
		(7)今井循環線(※東西廻の平均値) 今井地区～富岡地区～笠岡駅を結ぶ路線バス	A 計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数 535人 / 15人	R6.1.9からバス会社の人員不足により減便となり、利便性改善のため利用者が減少し、目標の達成には至らなかった。利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、今年度実施した乗降調査をもとにダイヤの改廃を検討する。	
収支率 9.28%/1.6%							
(8)広東線 広東地区～金浦地区～笠岡駅を結ぶ路線バス	A 計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数 5,217人 / 1,144人	R6.1.9からバス会社の人員不足により減便となり、利便性改善のため利用者が減少し、目標の達成には至らなかった。利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、今年度実施した乗降調査をもとにダイヤの改廃を検討する。			
収支率 19.71%/11.88%							
(9)大井ハイランド・尾坂線 尾坂地区～大井ハイランド団地～笠岡駅を結ぶ路線バス	A 計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数 11,159人 / 5,418人	目標の達成には至らなかった。ダイヤ改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。			
				収支率 21.87%/7.66%			
				系統毎の市財政負担 1,547千円 / 4,815千円			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
久米南町地域公共交通会議	(株)エスアールティー	町内全域	利用率の低いWEB予約の利用を促進するため、「スマホ教室」内で利用方法を周知した。乗降場所データと運行事業者からの提案を受けランドマークの見直しを行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 利用者数では目標達成。貨物数は目標達成できなかった。乗り合い率はわずかに目標を下回った。町内の公共交通空白地域が解消され、日常的に利用できる移動手段を確保することができた。	運行データの分析や運行事業者との情報共有、協議を継続し、さらなる運行効率化と利便性向上を目指す。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者利便の向上のため電子決済を導入した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 配車システムや貨客混載等を活用し、より効率的で利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
井原市公共交通会議	井原市公共交通会議	(1)井原市予約型乗合タクシー(芳井地区) (2)井原市予約型乗合タクシー(芳井地区) (3)井原市予約型乗合タクシー(美星地区) (4)井原市予約型乗合タクシー(美星地区)	・利用者数だけでなく、利用時間帯や行き先などの利用状況を集計し、公共交通会議で報告、検証を行った。 ・地域説明会を実施し、利用方法等の周知を図り、利用促進に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ①予約型乗合タクシー(あいあいカー芳井地区)年間利用者数(目標値)2,900人(実績値)3,630人(125.1%) ②予約型乗合タクシー(あいあいカー美星地区)の年間利用者数(目標値)1,500人(実績値)2,170人(144.6%) ③予約型乗合タクシー(あいあいカー芳井地区)利用者1人あたりの市支出額(目標値)4,300円/人以内(実績値)4,268円/人 ④予約型乗合タクシー(あいあいカー美星地区)利用者1人あたりの市支出額(目標値)3,600円/人以内(実績値)7,366円/人 ⑤予約型乗合タクシー(あいあいカー芳井地区)の運行に係る収支率(目標値)16%以上(実績値)18% ⑥予約型乗合タクシー(あいあいカー美星地区)の運行に係る収支率(目標値)21%以上(実績値)25% ・予約型乗合タクシーの年間利用者や収支率については、利用者や収益の増加により、目標値を達成した。 ・あいあいカー美星地区の利用者1人あたりの市支出額については、乗合率が伸びておらず、目標値を達成できなかった。	・現在、第2期地域公共交通計画を策定しており、次期計画期間において、あいあいカーの運行エリアの拡大・再編の検討やIT技術等を活用した利便性・効率性の向上について検討することとしている。 ・公共交通会議報誌「公共交通かわら版」の発行や地域での説明会等を実施するとともに、SNS(運行ダイヤ、イベント情報等の発信)も活用し、公共交通利用促進に努める。	【評価できる点】 ・公共交通に特化した「公共交通かわら版」による利用促進を図っている点は評価できる。 ・公共交通会議委員に8名の住民代表を委嘱し地域の意見や状況を把握している点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・普段デマンド交通を利用しない層の獲得に向けた利用促進の取組を期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
岡山市公共交通網形成協議会	八晃運輸株式会社	妹尾・北長瀬線 (妹尾駅～北長瀬駅)	今年度から実施	A 事業は計画通り適正に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 【目標】320人/日 【達成状況】118人/日 ・収支 【目標】収入11,000千円以上、支出30,000千円以内、収支率35%以上 【達成状況(見込)】収入3,642千円、支出35,255千円、収支率10.3% ・財政支出 【目標①】国からの支出4,000千円、岡山市からの支出15,000千円以内 【達成状況(見込)①】国からの支出3,737千円、岡山市からの支出27,876千円 【目標②】岡山市支線バス運行補助金により、運行経費の最大65%を補助 【達成状況(見込)②】運行開始初年度のため赤字を全額補助 ・事業の効果 【効果①】今保・古新田・延友・山田・妹尾にある交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段の確保 【達成状況①】達成済み 【効果②】幹線・支線のネットワークを連携し、効率的な運行体系の実現 【達成状況②】達成済み 	利用者数が伸び悩んでいるため、沿線地域での時刻表ポスティング、タウン情報誌やサイネージでの広告掲載、トータルデザインを踏まえた公共交通マップやPR動画の作成等により利用促進を図る。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップの作成、支線バスの時刻表・ポスターの掲示、沿線への時刻表配布など積極的な広報を実施している点は評価できる。 ・支線の開設にあたって、パブリックコメントを実施し、意見を広く反映している点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
岡山市公共交通網形成協議会	八晃運輸株式会社	妹尾・岡南線 (妹尾駅～築港新町)	今年度から実施	A 事業は計画通り適正に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 【目標】262人/日 【達成状況】59人/日 ・収支 【目標】収入1,049千円以上、支出2,997千円以内、収支率35%以上 【達成状況(見込)】収入203千円、支出4,373千円、収支率4.6% ・財政支出 【目標①】国からの支出200千円、岡山市からの支出1,748千円以内 【達成状況(見込)①】国からの支出510千円、岡山市からの支出3,660千円 【目標②】岡山市支線バス運行補助金により、運行経費の最大65%を補助 【達成状況(見込)②】運行開始初年度のため赤字を全額補助 ・事業の効果 【効果①】東畦・藤田にある交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保 【達成状況①】達成済み 【効果②】幹線・支線のネットワークを連携し、効率的な運行体系の実現 【達成状況②】達成済み 	利用者が伸び悩んでいるため、沿線地域での時刻表ポスティング、タウン情報誌やサイネージでの広告掲載、トータルデザインを踏まえた公共交通マップやPR動画の作成等により利用促進を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
美祢市地域公共交通協議会	美祢構内タクシー(株)	山中・堀越地区	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当り輸送人員の目標9人/日に対し、7人/日であった。収支率について目標8.5%に対し、6.5%であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員等と連携して移動に困っている高齢者等を把握し、新たな利用登録者の獲得と利用者数の増加に努める。	【評価できる点】 ・選挙や免許返納の機会を捉えて、利用促進策を講じた点は評価できる。 ・出前講座で参加者と公共交通の利用方法について考えることで高齢者の外出意欲を高めた点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
	美祢第一交通(有)	美東地域北部	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	A	高齢者の利用が想定を上回ったことにより、日当り輸送人員の目標6人/日に対し、7人/日であった。収支率について目標6.4%に対し、6.9%であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法等を広く市民に周知して利用者を増やす。現時点で目標は達成しているものの、引続き利用者のニーズや変化に注視して、計画的に運行の改善を検討する。	
	(有)秋芳タクシー	秋芳地域南部	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当り輸送人員の目標6人/日に対し、4人/日であった。収支率について目標3.9%に対し、3.0%であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員等と連携して移動に困っている高齢者等を把握し、新たな利用登録者の獲得と利用者数の増加に努める。	
	(有)秋芳タクシー	秋芳地域北部	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当り輸送人員の目標12人/日に対し、9人/日であった。収支率について目標4.9%に対し、3.7%であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員等と連携して移動に困っている高齢者等を把握し、新たな利用登録者の獲得と利用者数の増加に努める。	
	美祢第一交通(有)	美東地域南部	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	A	高齢者の利用が想定を上回ったことにより、日当り輸送人員の目標4人/日に対し、5人/日であった。収支率について目標3.5%に対し、4.0%であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法等を広く市民に周知して利用者を増やす。現時点で目標は達成しているものの、引続き利用者のニーズや変化に注視して、計画的に運行の改善を検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
美祢市地域公共交通協議会	美祢構内タクシー(株)	豊田前・西分	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B 高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当たり輸送人員の目標8人/日に対し、6人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員等と連携して移動に困っている高齢者等を把握し、新たな利用登録者の獲得と利用者数の増加に努める。	
	美祢構内タクシー(株)	厚保・西分	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B 高齢者の利用が想定を下回ったことにより、日当たり輸送人員の目標8人/日に対し、7人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法等を広く市民に周知しているが、利用が伸び悩んでいる。民生委員等と連携して移動に困っている高齢者等を把握し、新たな利用登録者の獲得と利用者数の増加に努める。	
		ジオタク全系統				ジオタク全系統の経費(運行経費-運賃収入)の計画額59,192千円に対し、実績は57,933千円であり、1,259千円の経費縮小となった。このうち、国補助については目標29,596千円に対し7,589千円、市負担については目標29,596千円に対し50,344千円となった。その結果、国・市の行政負担額の総額は57,933千円となり、目標額を達成した。	
		ジオタクのうち 豊田前・西分 厚保・西分				ジオタク全系統の経費(運行経費-運賃収入)の計画額59,192千円に対し、実績は57,933千円であり、1,259千円の経費縮小となった。このうち、国補助については目標29,596千円に対し7,589千円、市負担については目標29,596千円に対し50,344千円となった。その結果、国・市の行政負担額の総額は57,933千円となり、目標額を達成した。収支率について目標4.9%に対し、3.4%であった。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
美祢市地域公共交通協議会	美祢構内タクシー(株)	於福・奥分地区	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	A	高齢者の利用が想定を上回ったことにより、日当たり輸送人員の目標11人/日に対し、12人/日であった。 収支率について目標6.6%に対し、5.1%であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法を広く市民に周知して利用者を増やす。 現時点で目標は達成しているものの、引続き利用者のニーズや変化に注視して、計画的に運行の改善を検討する。
	合同会社ないろケア	杉谷・河原地区	診療所や商店、地域のワークショップなどで利用実態やニーズ等の聞き取りを実施し、サービスへの改善と検討に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	A	高齢者の利用が想定を上回ったことにより、日当たり輸送人員の目標3人/日に対し、5人/日であった。 収支率について目標2.8%に対し、3.4%であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、サロン等で出前講座を開催し、利用方法を広く市民に周知して利用者を増やす。 現時点で目標は達成しているものの、引続き利用者のニーズや変化に注視して、計画的に運行の改善を検討する。
	美祢構内タクシー(株)	ジオバス於福線	コミュニティバス「あんもないと号」の廃止路線の代替として、令和5年10月から運行を開始したが、地域住民のニーズに寄り添い、令和7年10月1日から新たにバス停を設置し、運行路線の一部を変更した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	A	高齢者の利用が想定を上回ったことにより、日当たり輸送人員の目標14人/日に対し、15人/日であった。 収支率について目標5.3%に対し、5.8%であった。	サロン等で出前講座を開催し、利用方法を広く市民に周知して利用者を増やす。 現時点で目標は達成しているものの、引続き利用者のニーズや変化に注視して、計画的に運行の改善を検討する。
	美祢第一交通(有)	ジオバス堀越・根越線	コミュニティバス「あんもないと号」の廃止路線の代替として、令和5年10月から運行を開始したが、地域住民のニーズに寄り添い、令和7年10月1日から新たにバス停を設置し、運行路線の一部を変更した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切実施された	B	小中学生の利用が想定を下回ったことにより、日当たり輸送人員の目標8人/日に対し、4人/日であった。 収支率について目標1.2%に対し、0.4%であった。	サロン等を活用して出前講座を実施し、利用方法を広く市民に周知して利用者を増やす。 運行開始から一定の期間が経過したため、利用実績や沿線住民のニーズに寄り添った運行改善に努め、引続き利用状況に注視するとともに、計画的に運行の改善を検討する。
			ジオバス全系統					ジオバス全系統の経費(運行経費-運賃収入)の計画額は19,713千円であり、実績額も同額であった。 このうち、国補助については目標9,856千円に対し5,873千円、市負担については目標9,857千円に対し13,840千円となった。 その結果、国・市の行政負担額の総額は19,713千円となり、目標額を達成した。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
岩国市地域公共交通活性化再生法協議会	第一交通(株)	叶木線 (六呂師口～岩国駅)	岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表及び公共交通マップを活用し周知を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。	C (目標達成状況) JR岩国駅への接続を行うことにより利便性の向上に努めた。また、利用者への周知については例年の周知方法を継続して実施した。 本年度設定した定量的な目標と実績に関しては、 ①経常収支率は目標2.8%以上に対して1.8%、 ②公的負担額は目標14,075千円以下に対して13,223千円、 ③市民一人当たりのバス年間利用回数は目標0.85回に対して0.74回、 ④年間利用者数は目標2,664人に対して2,312人となり、いずれの項目も目標達成とはなかった。 (効果達成状況) また、各路線においては、地域の公共交通空白地の解消と、高齢者等の移動手段の確保につながった。	今後も利用者のニーズに適したダイヤ及び路線の見直しを検討するとともに啓蒙活動等の利用促進を行う。	【評価できる点】 ・利用者の区分に応じた利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・地域住民の意見を反映できる取組を期待する。
		二鹿線 (北河内駅～岩国駅)						
		持ヶ峠線 (小川津～岩国駅)						
岩国市	岩国市	玖西循環線 (玖珂駅～玖珂駅)	JR岩徳線への乗り継ぎに適したダイヤ設定を行うことが利用者ニーズに即した運行となることから、引続きJR岩徳線のダイヤに合わせた運行ダイヤとなるよう調整を行った。 また、利用者への周知については、時刻表の全戸配布や主要施設等に設置するとともにホームページ等への掲載も行っている。 なお、岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表および公共交通マップも活用し周知を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。	B (目標達成状況) JR岩徳線のダイヤ改正に合わせて運行時刻の調整を行っており、また利用者への周知については例年の周知方法を継続して実施した。 本年度設定した定量的な目標と実績に関しては、 ①経常収支率は目標4.3%以上に対して4.26% ②公的負担額は目標13,056千円以下に対して13,073千円 ③市民一人当たりのバス年間利用回数は目標0.26回に対して0.27回 ④年間利用者数は目標5,210人に対して5,480人となり、 ③と④の二項目について目標達成となった。 (効果達成状況) 地域全体においては、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者等の外出促進、地域住民の活動機会の確保につながっている。	当該路線を維持することで、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者の外出促進、地域住民の活動機会の確保など地域活性化に繋がっているものと考えられる。 このため、今後も引き続きJR岩徳線・広域路線バスへの乗り継ぎに適したダイヤの設定及びSNS等を活用した啓蒙活動等の利用促進を行う。 また、利用状況に即した内容での運行便数に変更することで1運行あたりの利用者数の向上を図ることにより、持続可能な運行を目指す。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果	
下関市地域公共交通協議会	下関市(豊田) 全路子線	豊田総合支所 ～ 上全路子	<p>・令和6年11月に自治会を通じてチラシを配布し、新たな利用者の確保に努めた。また、令和7年10月からのAIオンデマンドバスの実証運行に向け、地域住民や事業所への説明を行い、事業の周知と利用促進を図った。</p> <p>・定期的な車両内部の消毒・換気を行い、安心して利用できる環境作りに努めた。</p> <p>・委託事業者にヒアリングを行い、利用状況等の確認を実施した。</p>	A	計画どおり事業は適切に実施された。	<p>(4路線) 目標利用者数 2,428人/年 実績利用者数 2,385人/年 目標達成率 98.2%</p> <p>B</p> <p>利用頻度の高かった利用者らの利用率が低下したことにより、目標は達成できなかった。</p> <p>(6路線) 目標 収支を前年度から1%改善する 令和6年度収支-54,613千円 令和7年度収支-56,409千円 収支率-3.3%</p> <p>目標 公的負担の現状維持を目指す 令和6年度公的負担 50,812千円 令和7年度公的負担 51,170千円</p> <p>また、収支・公的負担についても、物価高騰の影響等により収支率が下がり、公的負担額も増大したため、目標は達成できなかった。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 AIオンデマンドバスの実証運行にあたって、住民説明や積極的な周知を実施した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。 	
	下関市(豊田) 一の俣線	豊田総合支所 ～ 佐野		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市(豊田) 今出線	豊田総合支所 ～ 地吉		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市(豊田) 一の瀬線	豊田総合支所 ～ 中の瀬		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市(菊川) 縦ノ木・保木線	バスターミナル ～ 縦ノ木		A	計画どおり事業は適切に実施された。			<p>C</p> <p>利用者が限定的で、新規利用の伸び悩みや定期的利用者の減少により、目標は達成できなかった。</p>
	下関市(菊川) 内日・田部循環線	バスターミナル ～ 内日下 ～ バスターミナル		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
宇部市公共交通協議会	船木鉄道(株)	吉部・万倉線	<p>運転免許証の自主返納者を対象に、デマンドバスのお試し無料乗車券を配付した。また、投票時の移動を支援するとともに、当該路線を利用するきっかけ作りのため、期日前投票を目的とした利用に限り運賃を無料とした他、利用方法を記載したチラシを運行地域内で配布し、利用促進に取り組んだ。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>【目標】 年間利用者数1,190人 稼働率52.1% 収入230,700円 財政支出4,895,000円 収支率4.5% 【実績】 年間利用者数1,044人 稼働率50.5% 収入180,500円 財政支出5,087,122円 収支率3.4% 【達成状況】 5項目中達成は0項目</p>	<p>利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。</p>	
	宇部山電タクシー(株)	西宇部線	<p>地域住民の意向を反映し、令和6年10月に停留所を新設し、運行ルートを延伸した他、将来的な運行ルートの検討のため、利用意向調査を行った。事業者等から広告協賛を募ってチラシを作成して地区内で全戸配布した他、協賛によりベンチを作成し、4箇所の停留所に設置した。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配付した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>【目標】 年間利用者数1,170人 収入370,500円 財政支出1,529,300円 収支率19.5% 【実績】 年間利用者数945人 収入283,000円 財政支出2,313,950円 収支率10.9% 【達成状況】 4項目中達成は0項目</p>	<p>利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。</p>	<p>【評価できる点】 ・効果的な取組を他の地域で横展開させている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。</p>
	宇部山電タクシー(株)	厚南線	<p>運行ルート上の各自治会長に毎月運行実績表を配布した他、民生委員に利用状況等を共有し、利用促進への協力を呼び掛けた。市民センター等に時刻表や運行ルートを掲示し周知に取り組んだ。また、投票時の移動支援のため、期日前投票での利用に限り運賃を無料とした他、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配付した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	B	<p>【目標】 年間利用者数2,770人 収入501,000円 財政支出2,149,600円 収支率18.9% 【実績】 年間利用者数2,691人 収入523,600円 財政支出2,744,600円 収支率16.0% 【達成状況】 4項目中達成は1項目</p>	<p>利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
宇部市公共交通協議会	宇部第一交通線	原線	自治会長や民生委員等に、買物や通院時の移動に困っている方がいる場合、情報共有いただくように依頼した他、運行内容をより分かりやすく伝えるためのパンフレット作成に取り組んだ。また、投票時の移動支援のため、期日前投票での利用に限り運賃を無料とした他、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配付した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 年間利用者数2,000人 収入536,200円 財政支出1,155,300円 収支率31.7% 【実績】 年間利用者数2,137人 収入641,100円 財政支出1,547,780円 収支率29.3% 【達成状況】 4項目中達成は2項目	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、利便性の向上と周知啓発による利用促進を図る。
	宇部市交通局	東部市内循環線(めぐりーな)	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 年間利用者数44,910人 経常収益9,723,000円 財政支出8,544,300円 収支率53.2% 【実績】 年間利用者数40,295人 経常収益9,816,619円 財政支出10,753,000円 収支率47.1% 【達成状況】 4項目中達成は1項目	運行内容が定着し、利用者が安定しているので、周知活動を継続する。
	宇部市交通局	市街地循環線(車両減価償却費等国庫補助金対象車両を含む)	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。また、小型車両により、目的施設への乗り入れができ、まちなかの移動の利便性向上を図ることができた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 年間利用者数21,750人 経常収益1,774,800円 財政支出6,486,900円 収支率21.4% 【実績】 年間利用者数8,387人 経常収益1,844,583円 財政支出7,424,000円 収支率19.7% 【達成状況】 4項目中達成は1項目	収支率が30%を下回っているが、令和5年4月に実施した運行の見直しで一定の利用が確保できていると思われる。今後も、利用者増加のため、周知活動を継続する。
	宇部第一交通線	桃山線	コミタクを周知するための広報紙を作成し、コミタクの利用者に対して実施したアンケート結果(利用目的や利用者の声等)を掲載し、利用促進に取り組んだ。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配付した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 【目標】 年間利用者数2,690人 収入835,800円 財政支出3,995,400円 収支率17.3% 【実績】 年間利用者数2,576人 収入643,900円 財政支出4,796,360円 収支率11.8% 【達成状況】 4項目中達成は0項目	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
宇部市公共交通協議会	宇部第一交通(株)	東岐波線	地域住民の意向を反映し、令和6年10月に停留所を新設し、運行ルート等を見直しを図った他、時刻表等をより見やすいように刷新した。地域の広報紙に運行内容を掲載して全戸配布した他、自治会長や民生委員等を通して、交通手段を持たない高齢者に周知した。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配付した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 【目標】 年間利用者数1,210人 収入287,700円 財政支出1,210,700円 収支率19.2% 【実績】 年間利用者数1,007人 収入251,750円 財政支出1,595,450円 収支率13.6% 【達成状況】 4項目中達成は0項目	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。	
	宇部山電タクシー(株)	藤山線	地域住民の意向を反映し、令和6年10月に停留所新設し運行ルートを延伸した。地区の広報紙に運行内容を掲載して全戸配布した他、自治会長に利用促進への協力を呼び掛けた。また、運転免許証の自主返納者を対象に、コミタクのお試し無料乗車券を配付した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 年間利用者数420人 収入111,700円 財政支出488,900円 収支率18.6% 【実績】 年間利用者数534人 収入133,500円 財政支出633,260円 収支率17.4% 【達成状況】 4項目中達成は2項目	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
阿武町地域公共交通会議	防長交通株式会社	道の駅阿武町(齋藤医院前)～宇生賀	通勤、通学、通院などの朝夕の利用者ニーズを把握するとともに、デマンド型交通と地区間バスとの円滑な接続を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 年間3,400人のところ、2,329人となり目標を下回った。 収支差▲18,381千円(目標額▲17,896千円)、町の財政負担36,101千円(目標33,000千円)となり目標達成しなかったが、利用者の最低限の生活の足の確保ができた。	通勤、通学、通院などの朝夕の利用者ニーズを把握し、デマンド型交通と連携した円滑な接続を図る。	【評価できる点】 ・利用者のニーズを的確に把握しデマンド交通とバスとの接続性を向上させた点は評価できる。 ・高校生の通学や学生ボランティア活用、町内行事の際に、町内バス料金の運賃補助を実施し、利用促進を実施している点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
	防長交通株式会社	道の駅阿武町(齋藤医院前)～福賀小前	利用補助やイベントや施設での利用促進、PRを引き続き実施し、日中の利用の推進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。		利用補助を活用したり、イベント時の公共交通利用促進を図り、日中の利用促進を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
長門市公共交通協議会	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山	俵山公民館～俵山地区～俵山交流プラザ・長門市駅	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直し(便数の増加)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 地域内に浸透しているが、高齢化による利用者の減少もあり、目標3,270人に対し、3,043人であった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行事業者と連携し、地域住民の意見の反映や利用促進策を協議し、利用の増加に繋げている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
	特定非営利活動法人 むかつく	久津・上小田～向津具地区～久津・上小田	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しを検討している。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 地域内に浸透しているが、高齢化による利用者の減少もあり、年間利用者数は目標1,390人に対し、1,166人であった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、高齢化による地域ニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	
	古市タクシー株式会社	人丸駅～日置地区～人丸駅	利用者のニーズに沿った運行体系の見直し。乗降場所の追加、一部の時間帯の運行ダイヤを廃止し、いつでも利用できるオンデマンド運行を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 地域内への浸透、運行体系の改正により、利用者が増加し、年間利用者数は目標4,910人に対し、5,202人であった。	オンデマンド運行を引き続き行っていき、利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズに対応していきたい。	
	新日本観光交通株式会社	渋木・真木～長門市中心市街地	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しを検討している。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 地域内への周知により、年間利用者数は目標1,120人に対し、1,237人であり目標を達成した。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	
		三隅～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、運行体系の見直し(ダイヤの見直し・増便)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 運行体系の見直し、地域内への周知、地域内のバス路線廃止により、年間利用者数は目標5,630人に対し、5,750人であり目標を達成した。	バスの代替手段として地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者のニーズに対応した運行内容の検討を行ってほしい。	
	人丸タクシー株式会社	人丸駅～油谷後畑～人丸駅	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しを検討している。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 地域内への周知により、年間利用者数は目標890人に対し、1,358人であり、目標を達成した。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズに対応した運行内容の検討を引き続き行ってほしい。	
	富士第一交通株式会社	深川湯本～長門市中心市街地	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の検討し、AIデマンドの実証運行を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 運行体系の見直し、地域内への周知により、年間利用者数は目標1,740人に対し、2,443人となり、大幅に利用者が増加した。	地域への周知徹底に努めると共に、AIデマンドの実証結果など利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行ってほしい。	
		黄波戸・西深川～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、運行体系の見直し(ダイヤの見直し・増便)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 運行体系の見直し、地域内への周知、地域内のバス路線廃止により、年間利用者数は目標1,870人に対し、3,903人となり、大幅に利用者が増加した。	バスの代替手段として地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者のニーズに対応した運行内容の検討を行ってほしい。	
長門山電タクシー株式会社	青海島～長門市中心市街地	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系を検討し、AIデマンドの実証運行を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 地域内への周知により、年間利用者数は目標3,180人に対し、4,733人となり、大幅に利用者が増加した。	AIデマンドの実証結果など利用実態を分析し、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を行うと共に運行の効率化も図ってほしい。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
柳井市地域公共交通会議	柳井三和交通(株)	I系統 日積地区	運行主体、運行事業者、自治体が連携し、運行状況の情報共有を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ・利用者一人当たりの財政支出額の目標83.4円以下に対し、85.4円と目標を達成できていない。 ・収支率の目標21.0%に対し、実績18.9%と目標を達成できていない。 ・年間利用者数の目標8,523人に対し、9,544人であり目標を達成している。	各地区社会福祉協議会および交通事業者と連携を図り、利用者が少ないダイヤについては利用ニーズの把握に努め、目標達成を目指す。	【評価できる点】 ・引き続き地区ごとに利用者とともに分析と議論を重ね利用促進策に反映させている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。
		II系統 大島地区					
		III系統 伊陸地区					
	柳井第一交通(株)	IV系統 阿月地区					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
山陽小野田市地域公共交通会議	小野田第一交通(株)	松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線 湯の峠・陽光台・山川線	・市のホームページや窓口での周知により、一層の利用促進に努めている。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。	B ①1日あたりの利用者数 (松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線) 目標6人/日に対し、6.1人/日となり、目標値を上回った。 (湯の峠・陽光台・山川線) 目標14人/日に対し、7.5人/日となり、目標値を下回った。 ②収支率 目標8.6%に対し、5.7%となり、目標を下回った。 ③公的負担額 目標市民一人あたり110円/年に対し、142円/年となり、目標を下回った。	自治会を通じた周知に加え、民生委員やケアマネージャー等、地域に寄り添った活動をされている方へきめ細かい広報を行う。また、アンケート調査による利便性の向上等を通じ、利用者の拡大を図る。	【評価できる点】 ・事業者を意見交換の機会を定期的に設け、利用者に対する広報を積極的に行っている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・地域の商店等との連携や、イベント等の実施に併せて利用促進を行うなど、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
	小野田第一交通(株)	高泊地域	・市のホームページや窓口での周知により、一層の利用促進に努めている。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。	B ①1日あたりの利用者数 輸送人員は目標6人/日に対し、6.3人/日となり、目標値を上回る結果となった。 ②収支率 目標3.9%に対し、3.8%となり、目標を下回った。 ③公的負担額 目標市民一人あたり95円/年に対し、104円/年となり、目標を下回った。	自治会を通じた周知に加え、民生委員やケアマネージャー等、地域に寄り添った活動をされている方へきめ細かい広報を行う。また、これまでの運行実績を踏まえ、あまり利用されていない時間帯の便の見直し等を行い、より効率的な運用を目指す。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
田布施町地域公共交通協議会	田布施町社会福祉協議会	城南・西・東田布施系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の活用や各公民館等に事業説明を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1月当たりの利用者数は283.2人で、目標90人以上を達成した。 収支率は、10.3%で、目標21%に達しなかった。 行政負担額は5,152千円で、目標6,500千円を達成した。	予約型定額乗合タクシーへと移行し、利用率、利用者数とも伸びているが、鉄道、路線バスへの乗り継ぎ利用者数が想定より伸び悩んでいる。 上記接続強化を図るために、定額料金の一部見直しを行うことで、利用者、さらに収支率の向上が期待できる。 今後は、ダイヤ・運賃などのサービス面の改善を含め、地域のニーズにきめ細かく対応していく必要があり、利用者の利便の増進に資する取組を進めていく。	【評価できる点】 ・福祉関係者や民生委員を活用した利用促進策を講じた点は評価できる。 【期待する取組】 ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
		麻郷・麻里府系統	新たな予約型定額乗合タクシーの運行開始に向けて、地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様を目指した。				
		田布施町予約型定額乗合タクシー城南・東田布施系統	買い物送迎サービス登録者にアンケート調査を実施し、新サービスについての利用意向等の意識を確認した。				
		田布施町予約型定額乗合タクシー西田布施・麻郷・麻里府系統	公民館単位に住民説明会を行い、予約型定額乗合タクシーの運行について、要望等ヒアリングを行った。				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果		
周南市地域公共交通会議	周南市	大道理・須々万線 (大道理地区内～須々万地区内)	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。」については、頻繁に利用されていた方が転居されたことが要因の一つと分析している。 ・「病院や商業施設などと連携し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待します。」については、大道理・須々万線にて商業施設に新たな停留所を増設した。 <p>⇒引き続き、運行受託事業者(地元協議会)を通じて、地域のニーズの把握に努める。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ▶目標達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数:1,177人(目標1,350人以上) ・収入:194,000円(目標202,000円以上)、国からの支出:383,000円(目標1,220,000円以内)、周南市からの支出:1,100,000円(目標1,221,000円以内) ・収支率:13.0%(目標8.2%以上) ▶効果達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の路線の維持に努め、高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係者と連携して地域のニーズ等の把握に努め、運行ダイヤや乗降場所など住民が利用しやすい運行内容となるよう実施する。 ・新規利用者の獲得に向け、利用案内の配布等により周知を行う。 	
		八代・高水線 (鶴いこいの里～ゆめプラザ熊毛)	※昨年度は補助要件を満たせず対象外	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ▶目標達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数:1,806人(目標1,707人以上) ・収入:412,000円(目標224,000円以上)、国からの支出:2,435,000円(目標2,192,000円以内)、周南市からの支出:3,815,000円(目標2,193,000円以内) ・収支率:6.6%(目標5.1%以上) ▶効果達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の路線の維持に努め、高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係者と連携して地域のニーズ等の把握に努め、運行ダイヤや乗降場所など住民が利用しやすい運行内容となるよう実施する。 ・新規利用者の獲得に向け、利用案内の配布等により周知を行う。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のみならず運転士の意見収集までも行い、ニーズに応じて停留所の新設等の施策をおこなった点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・病院や商業施設などと連携し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。
		菊川・富田線 (菊川地区内～新南陽市民病院、新南陽駅前)	※新規	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	<ul style="list-style-type: none"> ▶目標達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数:1,307人(目標1,225人以上) ・収入:388,000円(目標122,500円以上)、国からの支出:2,267,000円(目標2,387,500円以内)、周南市からの支出:2,268,000円(目標6,838,000円以内) ・収支率:8.6%(目標1.3%以上) ▶効果達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の路線の維持に努め、高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係者と連携して地域のニーズ等の把握に努め、運行ダイヤや乗降場所など住民が利用しやすい運行内容となるよう実施する。 ・新規利用者の獲得に向け、利用案内の配布等により周知を行う。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
光市地域公共交通協議会	周南近鉄タクシー株式会社	光駅～光市役所前～光駅	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の利用者数モニタリング ・光市公共交通マップの改訂及び時刻表とともに沿線施設への設置による利用啓発 ・光市高齢者バス・タクシー運賃助成事業の実施による利用促進 ・インターネット経路検索用バス情報フォーマットの整備及び周知 	A 計画どおり実施されている	B <ul style="list-style-type: none"> (目標) <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数は14,797人で、目標24,177人以上に達しなかった。 ・収支率は26.4%で、目標29.8%以上に達しなかった。 ・行政負担額は11,129,990円となり、目標5,843,000円以下に達しなかった。 (効果) <ul style="list-style-type: none"> 例年に引き続き、光市公共交通マップの設置・配布や高齢者バス・タクシー等運賃助成事業の実施により利用促進を図り、運行を維持継続した結果、高齢者等の西部地域住民を中心とした利用者の移動手段を確保維持することができた。 	公共交通マップの改訂・配布や、バス路線がインターネットやスマートフォンでの経路検索などへ対応した旨の周知により本路線の利用促進を図るとともに、4月以降の利用者の増加要因と考えられる高齢者バス・タクシー等運賃助成事業やタクシー車両による追走体制を継続することにより、利用者数などの改善を目指す。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none"> ・利便性向上の施策としてインターネット経路検索用バス情報フォーマットを整備した点は評価できる。 【期待する取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・地域の商店等や病院などと連携し、より一層の利用者獲得に向けた取組を期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	評価結果
下松市地域公共交通活性化協議会	下松市	米川・花岡線	<p>米泉号には、予約エリアという概念が存在し、令和5年度まで①北エリアでは月、水、金②中央エリアでは火、木、土に予約を行うと乗車できるシステムであったが、住民アンケートや乗降データの分析の結果、北エリアと中央エリアの予約利用者数の偏りが激しいことが判明(北エリア:中央エリア≒2:98)したため、令和6年度から、予約エリアの曜日指定の撤廃し、全曜日で予約をすることを可能とし、その運用を引き続き継続している。</p>	A 計画事業は適切に実施された。	C 令和7年度の目標値は確保維持計画に記載した定量的目標を達成できなかった。 ((【参考】目標設定:1か月あたり利用者数60人⇔実績値:国庫補助対象便が年間290便あり、653人が利用(1か月あたり利用者数54人) 目標設定:1年間の収支率6.88%⇔実績値:計上収益109千円、経常費用2,380千円経常収支率4.57% 目標設定:1年間の公的負担額2,109,629円⇔実績値:2,270,972円)	<p>・住民のニーズや意見等を反映し、定時定路線と区域運行を併用した運行形態として実施していることから、どちらの運行形態の地区においても地域への認知度を向上させることにより、更なる利用者の掘り起こしを行う。</p> <p>・さらなる新規利用者開拓のため、無料乗車ウィークのイベントを実施する。</p> <p>・地域の公民館行事などと連携し、利用促進に繋がる施策を連携して行う。</p> <p>・これまで行ったアンケート等の利用者の意見を踏まえたダイヤ設計の検討を行う。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者獲得のため無料乗車ウィークを実施した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する。 ・新規利用者の獲得に向け、より多様な関係者と連携した取組を期待する。